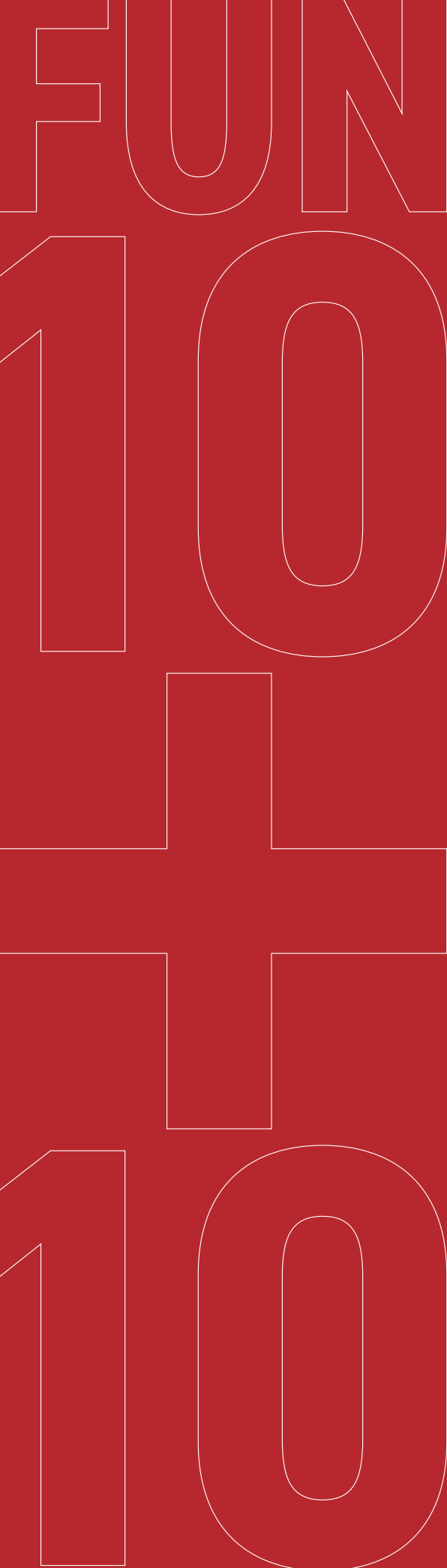




Part 2

資料編

01.沿 革	074
02.教育方針 3つのポリシー	080
03.組織図・教職員推移	082
04.役職者・名誉教授・教員一覧	084
05.施設概要	086
06.学部データ	088
07.大学院データ	100
08.学術交流協定等	104
09.研究資金獲得実績	105
10.特別講演会開催実績	106
11.公開講座開催実績	107
12.学会・研究会等	108

01 | 沿革

開学までの歩み(1976年度～1999年度)

年 度	月 日	事 項
1976年度(昭和51年度)	11月12日	国立函館大学誘致促進期成会が発足
1985年度(昭和60年度)	5月15日	国の国立大学・学部の新増設抑制方針を踏まえて、国立函館大学誘致促進期成会は北海道教育大学函館校の分離・独立を目指すことを決定
1994年度(平成6年度)	―― 8月22日	国立大学の誘致が難しいため、函館市は地域自らが主体的に構想した大学設置に取り組むことを決定 函館市高等教育懇話会を設置
1995年度(平成7年度)	5月16日 8月10日 1月25日	函館市高等教育懇話会から「高等教育機関の整備について」提言 函館市大学設置検討委員会を設置 函館市大学設置検討委員会から「函館市が主体となった大学設置について」報告
1996年度(平成8年度)	4月1日 4月11日 9月6日 10月15日 11月21日 11月29日	函館市大学設置推進事務局を設置 公立大学の平成12年4月開学を目指す「函館市大学設置基本構想案」を公表 (仮称)函館公立大学開学準備委員会および計画策定専門委員会を設置 大学の設置場所を函館市亀田中野町と公表 基本構想案を「函館市大学設置基本構想」として決定 自治省協議により、大学の設置主体を一部事務組合から広域連合とする方向で検討
1997年度(平成9年度)	5月2日 5月30日 10月31日 11月5日 11月6日 11月29日 2月1日	函館、上磯町、大野町、七飯町、戸井町の1市4町は大学設置を目的とした「公立大学関係市町首長会議」を設置 (仮称)函館公立大学基本計画案を公表 1市4町で北海道に函館圏公立大学広域連合設置許可申請書を提出 函館圏公立大学広域連合設置許可 最初の広域連合長選挙 最初の広域連合議会を開催 (仮称)函館公立大学基本計画を決定 大学名称を公募(～3.31)
1998年度(平成10年度)	5月29日 6月11日 10月3日 11月2日 3月31日	公立大学函館・道南圏設置促進期成会の設立 公立大学用地造成工事着工 大学名「公立はこだて未来大学」を公表 公立大学校舎建築工事着工 公立大学等の学術研究活動等の支援や地域の学術・文化・産業の振興などを図るための財団法人南北海道学術振興財団が設立認可 学長予定者公表(伊東 敬祐 神戸大学名誉教授)
1999年度(平成11年度)	4月30日 7月30日 10月12日 11月4日 12月22日 1月23日 1月31日 2月15日 3月10日 3月21日 3月28日	文部省に大学設置認可申請書(大学設置の趣旨等)を提出 文部省に大学設置認可申請書(教員個人調書等)を提出(第2次申請) 文部省実地審査 大学のシンボルマークを発表 公立はこだて未来大学設置認可 第1回特別選抜(推薦)入試 公立大学校舎建築工事竣工 第1回一般選抜前期日程入試(試験会場:函館、札幌、東京) 第1回一般選抜後期日程入試(試験会場:函館、札幌、東京) 大学事務局が新校舎で業務を開始 教育振興基金を設置

開学から法人化まで(2000年度～2007年度)

年 度	月 日	事 項
2000年度(平成12年度)	4月1日 4月7日 6月10日 7月15日 8月5日 8月19日 10月8日 11月4日 1月20日 2月3日	公立はこだて未来大学開学 公立はこだて未来大学入学式 公立はこだて未来大学開学記念式典 情報ライブラリー、体育館などの地域住民への開放を開始 オープンキャンパス 公立はこだて未来大学後援会設立総会 第1回未来祭(大学祭、～9日) 第1回AO(アドミッションズ・オフィス)入試(～5日) 公立はこだて未来大学で初の大学入試センター試験(～21日) マルチメディア大学(マレーシア)と遠隔特別共同講義を実施
2001年度(平成13年度)	5月18日 6月15日 7月26日 8月21日 11月7日 2月7日	校舎(本部棟)が第26回北海道建築賞を受賞 オンライン授業フィードバックシステムの運用を開始 函館駅前サテライトオフィスを開設 第1回編入学試験(～22日) 函館市内の大学等が研究成果の発表等を行う「函館アカデミックフォーラム」に参加(～8日) 校舎(本部棟)が第14回北海道赤レンガ建築賞を受賞

年 度	月 日	事 項
2002年度(平成14年度)	4月1日	プロジェクト学習を導入
	5月30日	校舎(本部棟)が2002年日本建築学会賞(作品)を受賞
	6月28日	文部科学省に公立はこだて未来大学大学院設置認可申請書を提出
	8月4日	3年生による夏休み中のインターンシップが開始
	10月15日	スタンフォード大(アメリカ)教員との交流会を開催
	11月15日	校舎(本部棟)が第43回BCS賞(建築業協会賞)を受賞 「第16回北海道技術・ビジネス交流会」に初出展(～16日)
	12月18日	初の学内合同企業説明会(～20日)
	12月19日	公立はこだて未来大学大学院設置認可
	1月10日	プロジェクト学習の初年度最終報告会
	2月1日	第1回大学院入試(～2日)
	3月3日	学内合同企業説明会(～6日)
	3月31日	自己点検・評価報告書(平成12～13年度が対象)を作成
2003年度(平成15年度)	4月1日	公立はこだて未来大学大学院開設
	4月4日	公立はこだて未来大学・大学院入学式
	6月5日	函館エリアが文部科学省都市エリア産学官連携促進事業一般型に採択され、 公立はこだて未来大学も研究機関として参画
	7月23日	IT技術開発支援セミナー(函館市と共催)
	8月29日	函館市が「マリン・フロンティア科学技術研究特区」に認定され、 公立はこだて未来大学と北海道大学大学院水産科学研究院が特例措置の対象施設になる
	9月3日	大学運営に学外の有識者の意見を反映させるため、学長の諮問機関として 「公立はこだて未来大学運営諮問会議」を設置し、第1回会議を開催
	11月20日	企業交流会(札幌)
	12月5日	学長選挙について告示
	12月8日	学長候補者演説会(～9日)
	12月15日	初の卒業研究発表会(～19日)
	12月19日	学長選挙により中島秀之氏を次期学長に選出
	2月25日	一般選抜前期日程入試に大阪会場を新設
	3月12日	一般選抜後期日程入試に大阪会場を新設
	3月22日	公立はこだて未来大学卒業式(第1期生の卒業)公立はこだて未来大学同窓会設立総会
	3月31日	伊東敬祐学長が退任
2004年度(平成16年度)	4月1日	中島秀之・第2代学長が就任 共同研究センター開設
	5月7日	研究棟建設工事着工
	6月19日	公立はこだて未来大学と北海道大学水産学部による初の合同企業説明会
	9月1日	教員研究情報誌を刊行
	10月7日	函館市ITビジネス交流会を東京で開催(函館市と共催)
	10月29日	英文の大学案内「The Guide」を刊行
	11月9日	企業交流会(東京)
	11月11日	校舎(本部棟)が第9回公共建築賞(生活施設部門)国土交通大臣表彰を受賞
	12月1日	函館圏公立大学広域連合を構成する戸井町が函館市に編入合併
	2月19日	3大学(公立はこだて未来大学、北海道大学、北海道教育大学)合同企業セミナー in はこだてを開催
	2月22日	共同研究センター設立記念講演会を開催
	2月28日	研究棟建設工事竣工
	3月18日	学生・教員により広報冊子「THE NEWSLETTER」を刊行 (第2号から「STUDENT NEWSLETTER」として引き続き刊行)
2005年度(平成17年度)	4月1日	研究棟の供用開始 カリキュラムを大規模に改訂 函館東高等学校(現市立函館高等学校)と教育の連携に関する協定を締結
	4月4日	研究棟オープンセレモニー
	4月12日	教育連携協定による函館東高校生の初講義
	5月1日	東京サテライトオフィス(秋葉原)を開設
	6月9日	愛知万博にNEC ソフトウェア北海道と共同開発したミュージカルロボットを出展(～19日)
	7月31日	自己点検・評価報告書(平成12～15年度が対象)を作成
	10月3日	平成16年度のプロジェクト学習(大規模病院に於ける、患者と病院とのコミュニケーションシステム)が 平成17年度グッドデザイン賞を受賞
	10月25日	第2回公立はこだて未来大学運営諮問会議
	11月8日	大学機関別認証評価訪問調査(～10日)
	11月26日	函館市内8高等教育機関による合同進学説明会に参加
	2月1日	函館圏公立大学広域連合を構成する上磯町と大野町が合併し、北斗市が誕生
	2月6日	函館市高等教育機関連携推進協議会が発足
	2月20日	広域連合議会で法人化の検討を表明
	3月8日	プロジェクト学習成果発表会 in 秋葉原(東京)を開催
	3月20日	大学機関別認証評価の評価結果報告(基準に適合)
	3月29日	函館工業高等専門学校と単位互換協定を締結
	3月31日	函館エリアが文部科学省都市エリア産学官連携促進事業発展型に採択され、 公立はこだて未来大学も研究機関として参画 公立はこだて未来大学出版会から『複雑系科学のすすめ』を刊行 函館駅前サテライトオフィスを閉所

01 | 沿革

開学から法人化まで(2000年度～2007年度)

年 度	月 日	事 項
2006年度(平成 18 年度)	4 月 1 日	学内に法人化検討委員会を設置
	4 月23日	第 1 回サイエンスカフェを開催
	7 月17日	函館市高等教育機関連携推進協議会の「アカデミック・フライトin はこだて」に参加
	7 月21日	学内の意向として法人化へ移行する方針を決定
	8 月14日	プロジェクト学習が「特色ある大学教育支援プログラム」(文部科学省)に採択
	10 月 3 日	「CEATEC JAPAN 2006」に初出展(～ 7 日)
	12 月 1 日	広域連合議会定例会で平成 20 年 4 月法人化を目指すことを表明
	1 月31日	プロジェクト学習成果発表会&企業交流会(東京)を開催
	2 月 2 日	プロジェクト学習成果発表会&企業交流会(札幌)を開催
	3 月28日	自己点検・評価報告書(平成 16 ～ 17 年度が対象)を作成
2007年度(平成 19 年度)	6 月 1 日	首都圏と函館圏とのIT 企業による寄附講座「実践的 IT 人材育成講座」を開設
	6 月19日	広域連合議会では法人の定款を議決
	7 月24日	北海道に広域連合規約の変更を申請
	8 月26日	オープンキャンパス in 札幌を開催
	9 月 5 日	広域連合規約の変更認可
	9 月12日	「イノベーション・ジャパン2007—大学見本市」に初出展(～14 日)
	1 月23日	北海道に公立大学法人の設置を申請
	2 月 1 日	文部科学省に大学設置者の変更を申請
	2 月22日	広域連合議会では法人の中期目標を議決
	3 月 3 日	公立大学法人の設置認可
		大学設置者の変更認可
	3 月 8 日	函館市高等教育機関連携推進協議会
		(平成 20 年 4 月からキャンパス・コンソーシアム函館に名称変更)で単位互換に関する包括協定を締結

法人化後(2008年度～2019年度)

年 度	月 日	事 項
2008年度(平成 20 年度)	4 月 1 日	公立大学法人の登記・設立、初代の理事長(学長)に中島秀之が就任 最初の役員会・経営審議会・教育研究審議会を開催 メタ学習センターを設置
	4 月18日	1・2 年生を対象にキャリアガイダンスを開始
	6 月10日	独立行政法人科学技術振興機構(JST)地域科学技術理解増進活動推進事業「地域ネットワーク支援」に採択 (提案機関:函館市、運営機関:公立はこだて未来大学)
	8 月 1 日	情報ライブラリーを高校生に開放(～ 8 月 22 日)
	8 月19日	函館市内の高等教育機関による「キャンパス都市函館構想」が文部科学省の戦略的大学連携支援事業に採択
	9 月21日	オープンキャンパス in 旭川を開催
	9 月28日	入試解説&個別相談会 in 青森を開催
	10 月31日	地域交流フォーラム「～研究発表会・産学官連携講演会～」(共同研究センター主催)を開催
	1 月23日	大学院生向けの合同企業説明会「技術フォーラム」を開催
	2 月10日	情報デザインコースが五稜郭タワーで初の卒業制作展を開催(～11 日)
2009年度(平成 21 年度)	4 月 1 日	事務局の再編(企画総務課、財務・研究支援課、教務課の 3 課体制)
	5 月27日	N H K 大学セミナー「環境と産業」を開催
	6 月 1 日	函館市、北斗市および七飯町の各教育委員会と小大連携協定を締結
	7 月 3 日	函館エリアが文部科学省知的クラスター創成事業(グローバル拠点育成型)に採択され、 公立はこだて未来大学も研究機関として参画
	8 月 4 日	教員免許状更新講習(～ 6 日)を開催
	8 月22日	地域ネットワーク支援事業として「はこだて国際科学祭」(～ 30 日)を開催
	10 月 3 日	入試解説&個別相談会 in 八戸を開催
	10 月 5 日	学術交流協定を締結している海外 6 大学とシンポジウムを開催
	10 月11日	未来祭にてOB・OG 座談会を開催(開学 10 年記念・未来祭共催)
	11 月 7 日	キャンパス・コンソーシアム函館による合同研究発表会(HAKODATE アカデミックリンク2009)に参加
	1 月27日	北海道大学大学院情報科学研究科と特別研究学生交流協定を締結
	2 月17日	日本アイ・ビー・エム株式会社と連携と協力の推進に関する協定を締結
2010年度(平成 22 年度)	4 月 1 日	複雑系学科と情報アーキテクチャ学科を情報アーキテクチャ学科と複雑系知能学科に再編 大学・大学院一貫(6 年制)の高度ICTコースを開設
	5 月21日	新星マリン漁業協同組合および留萌市と水産業振興・相互発展に関する包括連携協定を締結
	6 月12日	開学10周年記念式典を挙行
	9 月29日	大学見本市「イノベーション・ジャパン2010」(9/29-10/1)に出展しました
	11 月30日	公立はこだて未来大学振興基金を設置
	2 月17日	地域交流フォーラム「未来大学の今」を開催
2011年度(平成 23 年度)	10 月11日	大学機関別認証評価訪問調査(～12 日)
	10 月20日	福島吉岡漁業協同組合および福島町の三者が水産業の振興および相互発展に関する協定を締結
	11 月30日	公立はこだて未来大学振興基金を設置
	2 月 1 日	北海道大学と北海道地域における大学等の知的財産の技術移転に関する協定を締結
	3 月 1 日	地域交流フォーラム「21 世紀の地域社会とスマートシティ」を開催
	3 月26日	函館市教育委員会と連携協力に関する協定(中大連携)を締結
	3 月29日	大学機関別認証評価の評価結果報告(基準に適合)

年 度	月 日	事 項
2012年度(平成 24 年度)	4 月 1 日	「FUNコラボラティブ・ラボラトリ」(略称: コ・ラボ)がスタート 共同研究センターを社会連携センターに発展改組 メタ学習ラボの活動がスタート
	10月19日	(enPiT1)情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業に参加
	2 月22日	地域交流フォーラム《「国際都市・函館」へ一産学官民の横断連携で広げるー》を開催
2013年度(平成 25 年度)	4 月 1 日	プロパー職員(事務局)の採用を開始
	9 月30日	小樽商科大学との学生共同プロジェクト「小樽×函館 港町対決@北海道Likers」がスタート
	3 月 7 日	地域交流フォーラム「はこだてコンソー都市宣言!」を開催
2014年度(平成 26 年度)	4 月10日	公立はこだて未来大学出版会による出版活動スタート『情報表現入門』を刊行
	6 月 2 日	函館市国際水産・海洋総合研究センター内にサテライトラボ開設
	2 月 1 日	メタ学習ラボがITTPC国際チューター育成プログラム実施機関に認定
	3 月14日	地域交流フォーラム「21世紀的愉快な起業のススメ」を開催
	3 月20日	未来大出版会より『マリンITの出帆一舟に乗り、海に出た研究者のお話』を刊行
	3 月21日	東京虎ノ門にサテライト・オフィスを移設
2015年度(平成 27 年度)	4 月 1 日	情報システムデザインセンターを設置
	5 月15日	近代科学社より本学教員複数が執筆を担当した書籍『観光情報学入門』を刊行
	5 月27日	未来大出版会より『知能の物語』を刊行
	5 月30日	人工知能学会を開催
	11月21日	青森公立大学との連携ワークショップを開催
	12月13日	「北の四大学ビジネスプラン発表会～北の大地を大学連携で結ぶ」開催
	2 月 2 日	北海道教育大、北洋銀行、函館市と「はこだて地域協働フォーラム」を開催
	3 月14日	地域交流フォーラム「これから50年先の函館、日本、世界。」を開催
2016年度(平成 28 年度)	4 月 1 日	理事長(第3代学長)に片桐恭弘が就任
	7 月21日	未来大発ベンチャー、株式会社未来シェアを設立
	7 月23日	NEDO×未来大共催で学生・社会人向けITビジネスプラン研修を開催
	9 月26日	(enPiT2)成長分野を支える情報技術人材育成拠点の形成事業に参加
	12月19日	日本ビジネスシステムズ株式会社と連携協定を締結
	1 月17日	株式会社ミラック光学と連携協定を締結
	1 月30日	北海道立函館美術館と事業連携に関する協定を締結
	2 月17日	地域交流フォーラム「地域創生とオープンデータ運動」を開催
2017 年度(平成 29 年度)	4 月 1 日	3つのポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)を策定し、公表 GPA制度の導入 道内の大学初となる人工知能研究拠点「未来AI研究センター」開設
	5 月24日	函館市医師会および函館工業高等専門学校と医工連携の推進および相互発展に関する 包括連携協定を締結
	5 月26日	未来AI研究センターがノーステック財団平成29年度「地域産学官AI/IoT実証モデル委託事業」に採択
	1 月10日	未来AI研究センターが名古屋での相乗りタクシー実証実験に参画
	3 月14日	日本政策金融公庫函館支店と産学連携の推進および相互発展に関する連携協定を締結
2018 年度(平成 30 年度)	4 月 4 日	人工知能の専門展「AI・人工知能EXPO」に出展
	5 月16日	本学発ベンチャー、株式会社未来シェアが自治体総合フェア2018に出展
	8 月 8 日	湯の川プリンスホテル渚亭と共同研究を開始
	10月 4 日	未来大出版会より『未来を創る「プロジェクト学習」のデザイン』を刊行
	10月26日	未来AI研究センター交流会／2018年度産学官金連携フォーラム開催
	10月26日	株式会社北洋銀行と包括連携協定を締結
	11月 1 日	未来の公共交通SAVSプロジェクトが太田デイトレセンター(群馬県)にて実証実験を開始
	11月20日	大学機関別認証評価訪問調査(～21日)
	2 月 1 日	公立はこだて未来大学振興基金 インターネットによる寄附申込みを開始
	3 月 1 日	未来大出版会より書籍『スマートモビリティ革命』を刊行
	3 月27日	大学機関別認証評価の評価結果報告(基準に適合)
2019 年度(平成 31 年度)	4 月19日	本学発ベンチャー(株)未来シェアが、経産省・国交省スマートモビリティチャレンジ推進協議会に参画
	4 月11日	海外留学助成制度を創設
	8 月27日	東京都文京区本郷にサテライト・オフィスを移設
	10月 9 日	道立工業技術センターと連携・協力に関する協定を締結

02 | 教育方針 3つのポリシー

大学

(2020年4月現在)

学部アドミッション・ポリシー(入学受入れ方針)

公立はこだて未来大学は「オープンスペース、オープンマインド」をモットーとし、システム情報科学に関わる、高い専門能力、問題探究力・構想力、情報表現能力・チームワーク力、学び続ける力、専門家としての人間性という5つの素養を育むことを目標としています。

この目標に向けて、本学では教養基礎科目群、コミュニケーション科目群、学部共通科目群、学科専門科目群、コース専門科目群において、知識と技術、解決力、コミュニケーション力を身につけます。また、プロジェクト学習をはじめとする演習・実習、討論、フィールドワーク等を通じて、主体的に学ぶ姿勢を身につけます。学部教育の集大成として、卒業論文を執筆し発表を行います。

そのため、次のような資質と能力をもつ人を求めています。

- ・本学で学ぶうえで必要となる学力を備えている人
- ・システム情報科学分野に強い関心をもっている人
- ・計算論的思考力を習得し、情報論的社会観を備えて、未来に貢献しようとする意欲をもっている人

(入学受入れの基本方針)

- ・多様な入学受入れ方式を採用し、本学での学修に強い意欲をもつ人を受け入れます。
- ・一人ひとりの資質と能力を重視し、個人の属性による差別を行いません。入学受入れは学部一括の募集によって行います。入学後、第2学年進級時に各学科・コースに配属します。ただし、編入学については学科ごとの募集となります。

● 一般選抜(前期日程)

本学で学ぶうえで必要となる理数系および言語系の学力と知識の運用力、論理的思考力を有するかを評価します。

(選抜方法)

[概要] 大学入学共通テストと個別学力検査により、修学に必要な総合的な学力を有することを問う入試です。

[大学入学共通テスト] 国語・数学・理科・外国語(英語とリスニング)の4教科を課し、理数系および言語系を中心に学力を検査します。

[個別学力検査] 理数系の基礎となる数学、および英語の記述式試験を課すことにより、学力を検査します。数学では知識・技能、思考力・判断力・表現力に加え、解答に至る過程を論理的に正しく的確に記述できる能力を、英語では出題する文章と問題に独自の焦点をもたせ、情報や考えを理解し伝える能力を評価します。

[合否判定] 大学入学共通テストの得点と個別学力検査の得点を合算して総合点の高い順に合格者を決定します。

● 一般選抜(後期日程)

本学で学ぶうえで必要となる理数系および言語系の高い学力を有するかを評価します。

(選抜方法)

[概要] 大学入学共通テストの得点により、修学に必要な学力を有することを問う入試です。

[大学入学共通テスト] 国語・数学・理科・外国語(英語とリスニング)の4教科を課し、理数系および言語系を中心に学力を検査します。

[合否判定] 大学入学共通テストの得点の高い順に合格者を決定します。

● 総合型選抜

- ・システム情報科学分野に強い関心があり、本学で学ぶうえで必要となる理数系および言語系の基礎学力を有しているかを評価します。
- ・さらに、思考力・判断力・表現力に優れ、多様な人々と協働して主体的かつ継続的に学ぶ意欲をもつこと、システム情報科学の学びに結びつく優れた学力や技能、活動実績、社会経験などを有していることを、面接によって評価します。

(選抜方法)

[概要] 適性検査により基礎学力を、面接によりシステム情報科学分野への強い関心および自己推薦の根拠となる具体的な活動実績を有することを問う入試です。

[適性検査] 総合問題Aでは理数系の基礎的な能力、総合問題Bでは言語理解・言語表現の基礎的な能力を評価するため、記述式の問題を出題し、本学で学ぶうえで必要となる基礎学力を有するかを検査します。

[面接] プレゼンテーションおよび対話面接により、思考力・判断力・表現力、主体性、および本学で学ぶうえでの適性などを検査します。対話面接では、志望理由書や調査書などの出願書類を活用します。

[合否判定] 適性検査と面接を総合的に評価して合格者を決定します。

● 学校推薦型選抜

- ・成績が優秀であり、修学のための能力と適性に基づいて在学高等学校長より推薦を受けた人を対象とします。
- ・システム情報科学分野に強い関心があり、本学で学ぶうえで必要となる理数系および言語系の基礎学力を有するかを評価します。
- ・さらに、思考力・判断力・表現力に優れ、多様な人々と協働して主体的かつ継続的に学ぶ意欲をもつことを、面接によって評価します。
- ・本選抜では公立大学の責務として、地域における高等教育の機会を提供し、知的・文化的拠点としての役割を果たすため、全国枠に加え、地域枠および地域を対象とした指定校推薦枠を設けています。

(選抜方法)

[概要] 適性検査により基礎学力を、面接により本学で学ぶために必要となる能力と適性を有することを問う入試です。

[適性検査] 総合問題Iでは理数系の基礎的な能力、総合問題IIでは言語理解・言語表現の基礎的な能力を評価するため、記述式の問題を出題し、本学で学ぶうえで必要となる基礎学力を有するかを検査します。

[面接] 対話面接により、思考力・判断力・表現力、主体性、および本学で学ぶうえでの適性などを検査します。対話面接では、志望理由書や調査書などの出願書類を活用します。

[合否判定] 地域枠と全国枠については、適性検査と面接を総合的に評価して合格者を決定します。指定校推薦枠については、面接による評価で合格者を決定します。

● 編入学試験

- ・システム情報科学分野に強い関心があり、編入学後に必要となる理数系および言語系の学力に加え、専門領域に関する基礎的な知識と技能を有するかを評価します。
- ・さらに、思考力・判断力・表現力に優れ、多様な人々と協働して主体的かつ継続的に学ぶ意欲をもつことを、面接によって評価します。
- ・本選抜においては、地域の工業高等専門学校生の進学を確保するため、全国枠に加え、北海道内を対象とする特別選抜枠を設けます。※なお、編入学試験においては学科ごとに募集し、合格後に配属先コースを決定します。

(選抜方法)

[概要] 学力検査および面接により、編入学に際して必要となる十分な学力と知識・技能、論理的思考力を有することを問う入試です。

[学力検査] 理数系科目である数学と情報に加え、英語の記述式試験を課すことにより、編入学に必要な学力と、専門領域に関する基礎的な知識を身につけているかを検査します。

[面接] 対話面接を課し、面接員との対話を通じて、思考力・判断力・表現力と主体性を検査します。

[合否判定] 一般選抜では学力検査と面接を総合的に評価して合格者を決定します。特別選抜においては、面接での評価によって合格者を決定します。

(留学生特別選抜)

[概要] 編入学試験においては、留学生を対象とした特別選抜を行いません。ここでいう留学生とは、出入国管理局および難民認定法に定める「留学」の在留資格を有する者または入学時に取得できる者のことを指します。

[選抜方法] 学力検査および面接により、編入学に際して必要となる十分な学力と知識・技能、論理的思考力を有することを評価する入試で、検査内容は一般選抜と同一です。

[出願資格審査] 出願に当たっては事前に、学歴および日本語能力についての出願資格審査を行います。

学部カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーが掲げた「システム情報科学に関する高い専門能力」「研究的態度を支える問題探究力・構想力」「共創のための情報表現能力・チームワーク力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」を養うには、1年次から4年次にかけて段階的に、かつ各科目群に特化したそれぞれの文脈の中で学び続けることが重要です。

1年次から2年次における学部共通専門科目群、コミュニケーション科目群、教養基礎科目群では、「研究的態度を支える問題探究力・構想力」「共創のための情報表現能力・チームワーク力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」の重要性を知り、1年次・2年次のレベルにあった学習目標・学習内容においてこれらを学習します。これにより、2年次以降の各コースで専門的に学ぶために必要となる基礎的な知識やスキルを身につけます。

2年次以降は、各コースの専門科目群において「システム情報科学に関する高い専門能力」を身につけるとともに、システム情報科学実習(プロジェクト学習)や卒業研究などの実践の場で「研究的態度を支える問題探究力・構想力」「自律的に学び続けるためのメタ学習力」「専門家として持つべき人間性」を深めていきます。

各科目群のカリキュラムは、以下の方針のもと編成し実施します。実施にあたっては、各科目の目標にあわせて講義、演習・実習、討論、フィールドワーク等を組み合わせることにより、学生の主体的な学びを促進させます。各科目の目標に対する到達状況を評価し、合格したものには所定の単位を与えます。

1) 教養基礎科目群(1～4年次)

教養基礎科目群では、人間の形成、社会への参加、科学技術と環境の理解、健康の保持を目的とする。そのために、社会の一員であることの自覚を促し、物事を理解し推測し判断するための基礎となる幅広い教養と、将来の自律的諸活動への導きとなる知識を身につける。

2) コミュニケーション科目群(1～2年次)

コミュニケーション科目群では、科学・工学・デザインという文脈における、多様なモダリティとリテラシーを駆使したコミュニケーション能力を育成することを目的とする。そのために、情報科学やグローバルな事象、さらに学生にとって身近な問題をテーマにし、協同・学問横断的アプローチによりコミュニケーション活動を実践していく。教員による働きかけや学生自身の学び、メタ的な視点による学びが相乗的に作用し合う環境を設け、多様なメディアを使った創造的なコミュニケーション活動を行えるようにする。学生は互いに支え合う学習コミュニティを構築しながら、主体的にアカデミックスキルと専門的態度を身につける。

3) 学部共通専門科目群

学部共通専門科目群では、各コースで専門的に学ぶために必要となる基礎的な能力、すなわち計算論的思考、数理思考、日本語による読解力・作文力、英語の語彙力・読解力・作文力を身につける。また、3年次のシステム情報科学実習(プロジェクト学習)においては、チームで地域や社会の中から課題を発見し、解決策を考え実施していく力を身につける。4年次の卒業研究では、全学生が研究室に配属され、担当教員の指導のもと、それぞれのコースの専門性にふさわしい手段をもちいて各自の研究課題に取り組み、卒業論文の執筆および口頭発表を行う。

4) 情報システムコース専門科目群(2～4年次)

・情報システムコースでは、安心・安全・快適な情報社会を実現するた

めのネットワーク、セキュリティ、データベース、ソフトウェアなどの基礎技術と応用技術を学ぶ。

・卒業研究では、安心・安全・快適な情報社会を支援する観点から、価値ある情報システムの創造、効率性と信頼性を考慮した情報システムの実現、多様で大規模な情報の生成と分析に関する具体的な課題に取り組み、その結果の評価を通じて、新しい方法論や、学問領域を切り拓く能力を育む。

5) 高度ICTコース専門科目群(3～4年次)

・高度ICTコースでは、安心・安全・快適な情報社会を実現するためのネットワーク、セキュリティ、データベース、ソフトウェアなどの基礎技術を講義を通して学び、産学官の連携による実践的なシステム開発演習を通して開発技術やマネジメント力、コミュニケーション力を養う。

・卒業研究または卒業開発では、社会の問題を発見し、ICTで解決する観点から、価値ある情報システムの創造、高品質な情報システムの実現と運用、チーム開発とプロジェクトマネジメントに関する具体的な課題に取り組み、その結果の評価を通じて、新しい方法論や、学問領域を切り拓く能力を育む。

6) 情報デザインコース専門科目群(2～4年次)

・情報デザインコースでは、情報学と認知科学に基づいて、デザインプロセス(分析・課題発見・試行錯誤・提案・評価)を繰り返し経験することで、様々な課題に取り組む知識と方法、態度を身につける。

・卒業研究では、デザイン、情報学、認知科学における技能と知識を背景とし、サービス創造と価値創造、インフォグラフィックスを駆使したこと作り・もの作り、人間中心のデザインに資する研究領域に関する具体的な課題に取り組み、その結果の評価を通じて、新しい方法論や、学問領域を切り拓く能力を育む。

7) 知能システムコース専門科目群(2～4年次)

・知能システムコースでは、知能の解明やモデル化において必要となる論理的思考力と知能システムの実装に必要な情報処理の基礎を身につけ、環境、認知、言語、メディア、身体などの知能に関する多様な課題に目を開き、認知科学、人工知能、知能メカトロニクス技術とともに知能システムを実世界に実装し評価する能力を身につける。

・卒業研究では、知能に関する課題および人と人工物の新たな関係性を構成論的な手法で追究する観点から、人の知的能力や機能の解明、数理モデル化、実世界への実装に関する具体的な課題に取り組み、その結果の評価を通じて、新しい方法論や、学問領域を切り拓く能力を育む。

8) 複雑系コース専門科目群(2～4年次)

・複雑系コースでは、自然や社会の法則性に広く関心を持ち、複雑系の観点からそれらを数理的にモデル化し、分析・適用する能力を身につける。そのために、複雑系の理解や数理モデル化において必要となる論理的思考力と分析手法に必要な情報処理の基礎を習得する。さらに、情報系科目・数物系科目・複雑系科目の3つのカテゴリからなる科目群を学び、多様な複雑系への理解を深め、数理モデル化、分析手法の基礎を習得する。

・卒業研究では、複雑系の観点から、法則性の解明、数理モデル化、実世界への適用に関する具体的な課題に取り組み、その結果の評価を通じて、新しい方法論や、学問領域を切り拓く能力を育む。

学部ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

公立はこだて未来大学の使命は、人間と科学が調和した社会のために、卓越した学びの共同体として、分野を越えた協働を通じて社会を支える多様な情報システムの革新的発展を先導するとともに、広く柔軟な視野を備え、地域と世界のために未来社会を創出する力を備えた人材を輩出することです。

この使命のもと、以下の5つの観点において、所定の成績を修めた学生に学士の学位を授与します。

02 | 教育方針 3つのポリシー

1. システム情報科学に関する高い専門能力

- 複雑な対象を抽象化、体系化、モデル化する能力を持ち、社会で役立てることができる。
- 分野横断的な探求力・構想力を持ち、実世界に実装する構成的手法に則り、新たな情報システムを創り出すことによって社会をデザインできる。

2. 研究的態度を支える問題探究力・構想力

- オープンスペース、オープンマインドの精神のもと、さまざまな問題に積極的に対峙し、研究的態度をもってその要因と解決策を探究できる。
- 身につけた専門能力を地域や社会の問題解決に適応させるとともに、新しい方法論や学問領域を切り拓くことを目指し、来るべき情報社会の構想に貢献できる。

3. 共創のための情報表現能力・チームワーク力

- 文化や立場の異なる他者に対して敬愛の念を持ち、科学技術に関するコミュニケーションに基づく信頼関係を築き、情報を的確に表現し、対話し、学び合い、批評し合うことにより、共創的活動ができる。
- チームを構成する一員としてリーダーシップを発揮し協働した経験を、市民として社会共同体の中で発揮することができる。

4. 自律的に学び続けるためのメタ学習力

- 大人の学び手として、広い視野をもって自分自身の学びを自己決定できる。
- 目標を立てて、知識や技能を生涯にわたり積極的に学び続けることができる。

5. 専門家として持つべき人間性

- 好奇心・探究心にあふれ、科学的な態度で物事に取り組むことができる。
- 高い倫理観を保ち、最善の道を探りながら、誠実に使命を遂行することができる。

大学院

(2020年4月現在)

大学院アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

求める大学院生像

公立はこだて未来大学は、「オープンスペース、オープンマインド」をモットーとし、新しい分野に挑戦する意欲、対応力、専門性を兼ね備えた大学院生を育てたいと考えています。

システム情報科学という考え方に基づいて、情報社会において複雑なシステムを扱える人材を育成します。本学では、専門知識を活用する力、研究する力、創り出す力を重視します。特に、博士後期課程においては、学術コミュニティないしは産業界において専門的成果を発信する力を重視します。

入試に際して確認する能力

1 専門科目

システム情報科学において、自らが興味を持って研究しようとする分野および周辺分野の基礎事項に習熟していることを求めます。

2 英語

研究において必要な英文読解・作文力育成の基礎となる英語語彙・文法知識を求めます。他者の考えを理解し、自身の考えを表現する、英語コミュニケーション力の基礎となる英語運用力を求めます。

3 面接

研究計画・経過・成果などを表現し伝える、コミュニケーション力を求めます。

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1 博士(前期) 課程

ディプロマ・ポリシーが掲げた「現実の社会システムを直視し、そこから問題を発見し、解決し、更に新たなシステムを設計する」能力育成に向けて、研究科共通科目群および情報アーキテクチャ領域、高度ICT領域、メディアデザイン領域、複雑系情報科学領域、知能情報科学領域の各研究領域に対応した領域専門科目からなる専門科目群を通して学びます。また「現実のシステムを見据えた上で将来のシステムを戦略的に見通す」能力を育成するために、各領域毎の研究指導科目群を設けます。各科目群では、下記の方針のもと、カリキュラムを編成し実施します。実施にあたっては、各科目の目標にあわせて講義、演習・実習、討論、フィールドワーク等を組み合わせることにより、学生の主体的な問題解決・問題発見を促進させます。各科目の目標に対する到達状況を評価し、合格したものには所定の単位を与えます。

●研究科共通科目群(M1)

研究科共通科目群では、学位論文を執筆するために必要なアカデミックリテラシーやデータリテラシーに関する科目を開講します。

- 講義および演習を通して、国際的な研究開発やビジネスの現場でも通用するアカデミックリテラシー、データリテラシー、研究倫理を学びます。

●情報アーキテクチャ領域専門科目群(M1-2)

情報アーキテクチャ領域専門科目群では、情報システムに関する基盤技術、情報システムの構築技術、それらを統合した高度な情報システムの構築技術を身につけるために必要な科目群を開講します。

- 情報ネットワーク、メディア情報学、データ科学の講義を通して、基盤技術を学びます。
- 情報環境学の講義を通して構築技術を学びます。
- フィールド情報学を通して、統合された高度な情報システムについて学びます。

●高度ICT領域専門科目群(M1-2)

高度ICT領域専門科目群では、情報システムを基盤とした実社会の課題を解決する高度で実践的な計画技術、設計技術、開発技術、管理技術、およびそれらの統合技術を身につけるために必要な科目群を開講します。

- ICTデザイン、ITアーキテクチャ、組み込みシステムの講義を通して、計画技術、設計技術を学びます。
- オープン技術、サービスマネジメントの講義を通して、開発技術、管理技術、統合技術を学びます。
- 産学官の連携によるプロジェクト型システム開発演習を通して、実践的な開発技術やマネジメント力、コミュニケーション力を学びます。

●メディアデザイン領域専門科目群(M1-2)

メディアデザイン領域専門科目群では、デザイン方法論、情報技術を生かした先端的人工物の創造・情報表現の基盤技術と、それらを統合した高度な人と環境の関係のデザイン能力を身につけるために必要な科目群を開講します。

- 認知システム、インタラクティブシステムの講義を通して、先端的人工物の創造・情報表現の基盤技術を学びます。
- 情報デザイン、メディアデザインの講義を通して、人と環境の関係のデザイン能力を学びます。

●複雑系情報科学領域専門科目群(M1-2)

複雑系情報科学領域専門科目群では、自然、生命、社会、経済、環境など多様な分野における現象を複雑系として解明する基礎理論や実システムを複雑系として解析する手法を身につけるために必要な科目群を開講します。

- 数理解析、応用複雑系、情報数理、非線形数理の講義を通して、現象を複雑系として解明する基礎理論を学びます。

・システム数理、複雑系システムの講義を通して、実システムを複雑系として解析する手法を学びます。

●知能情報科学領域専門科目群(M1-2)

知能情報科学領域専門科目群では、高度な知的処理機構、人の認知に関する科学的知見、それらを適用してより知的な情報システムを構築するための技術を身につけるために必要な科目群を開講します。

- ・知能情報科学、知能システムプログラミング、適応システムの講義を通して、高度な知的処理機構を学びます。
- ・知能メディアの講義を通して人の認知に関する科学的知見を学びます。
- ・自律システム、知能システムの歴史と未来の講義を通して、知的な情報システムの構築技術を学びます。

●研究指導科目群(M2)

研究指導科目群では、システム情報科学分野の体系的理解と問題解決・問題発見力を活用して研究を遂行し、高度な学術性を有する修士論文を作成するための科目群を開講します。

指導教員による研究指導を通して、専門的テーマに関する研究遂行力と成果発表力を涵養します。

研究指導科目群は、指導教員の専門的な研究指導のもとに、

- ・システム情報科学の分野を体系的に理解し、学術・産業の発展への寄与を目指し、高度な学術的内容を含む成果創出に向けた専門的知識、研究方法論を涵養します。
- ・新原理や新手法などの探究を意識し、研究テーマの設定、研究計画、研究評価、学会等での研究発表、論文の作成などの研究プロセスを通して修士論文を作成します。

また各指導科目において、極めて優秀である場合には、修業期間を短縮して論文提出を行うことも可能とします。

2 博士(後期) 課程

「システム情報科学における新原理や新たな問題解決手法の探求を行える」能力を育成し、ディプロマ・ポリシーにおける「システム情報科学の分野を体系的に理解し、その学際性を十分に意識して作成され、広い視野に立った高度な学術的内容を含み、当該の研究分野ないしは関連する産業界の今後の発展に寄与する新たな内容を含んでいると判断されること。」を満たす博士学位論文を作成していくための、研究指導科目群を設けます。

●研究指導科目群(D1-3)

研究指導科目群は、指導教員の専門的かつ綿密な研究指導のもとに、

- ・システム情報科学の分野を体系的に理解し、学術・産業の発展に寄与し、広い視野に立った高度な学術的内容を含む新規成果創出に向けた専門的知識、研究方法論を涵養します。
- ・新原理や新手法などの探究を目指し、研究テーマの設定、研究計画、研究評価、学会等での研究発表、論文の作成などの研究プロセスを通して博士論文を作成します。

また各指導科目において、極めて優秀である場合には、修業期間を短縮して論文提出を行うことも可能とします。

大学院ディプロマ・ポリシー(修了認定・学位授与の方針)

本研究科は、コンピュータと人が調和するシステムのあり方を追究することを目的とし、複雑系科学、情報科学、デザイン学、認知科学などを統合した学際的な教育研究を行い、広い視野をもった人材の育成を行っている。

具体的に、博士(前期)課程においては、現実の社会システムを直視し、そこから問題を発見し、解決し、更に新たなシステムを設計することが出来る人材の養成を目指す。現実のシステムの分析と理解に加えて、将

来のシステムを戦略的に見通すことのできる能力を養うことを目的としている。

また博士(後期)課程においては、博士(前期)における目的に加え、システム情報科学における新原理や新たな問題解決手法の探求を行える人材の養成を目的としている。

このような目的のために本研究科は、所定の単位を取得したのに対し、次の基準にもとづいて学位を与える。

1.博士(前期)課程

各領域ごとに、以下のように基準を定める。

情報アーキテクチャ領域

提出された学位論文が、様々な情報システムに関する基盤技術、情報システムの構築技術、もしくはこれらを統合してより高度な情報システムを構築する技術などに関連するもので、この分野において新たな成果を含む、または、広い視野に立った学術的内容を含んでいると判断されること。

高度ICT領域

提出された学位論文が、情報システムを基盤とした実社会の課題を解決する高度で実践的な計画技術、設計技術、開発技術、管理技術、もしくはこれらの統合技術に関連するもので、この分野において新たな成果を含む、または、広い視野に立った学術的内容を含んでいると判断されること。

メディアデザイン領域

提出された学位論文が、情報社会の現代的問題を解くデザイン方法論の構築、情報技術を生かした先端的な人工物の創造、情報表現の基盤技術、もしくはこれらを統合してより高度な人と環境の関係のデザインに関するもので、この分野において新たな成果を含む、または、広い視野に立った学術的内容を含んでいると判断されること。

複雑系情報科学領域

提出された学位論文が、情報化社会の進展とともに、ますます複雑化の様相を帯びてきた自然、生命、社会、経済、環境などを複雑系として解明する基礎理論、及び実システムを複雑系として解析する手法などに関連するもので、この分野において新たな成果を含む、または、広い視野に立った学術的内容を含んでいると判断されること。

知能情報科学領域

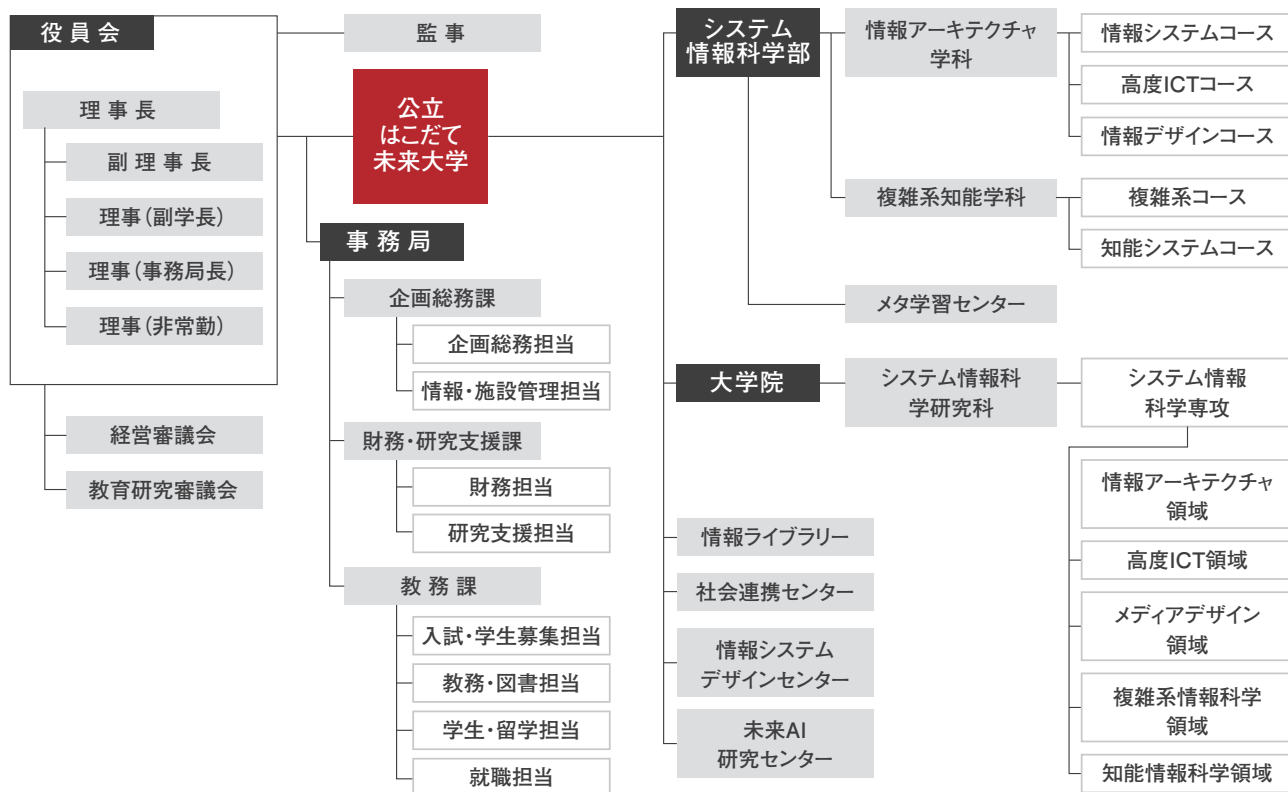
提出された学位論文が、高度な知的処理、人の認知に関する基盤要素、もしくはこれらを適用してより知的な情報システムを構築する技術などに関連するもので、この分野において新たな成果を含む、または、広い視野に立った学術的内容を含んでいると判断されること。

2.博士(後期)課程

提出された博士学位論文が、システム情報科学の分野を体系的に理解し、その学際性を十分に意識して作成され、広い視野に立った高度な学術的内容を含み、当該の研究分野ないしは関連する産業界の今後の発展に寄与する新たな内容を含んでいると判断されること。

03 | 組織図・教職員推移

1. 組織図 (2020年4月1日現在)



2. 組織の変遷

- 2003年4月1日 大学院を設置
- 2004年4月1日 共同研究センターを設置
共同研究センター担当参事3級を配置
(～2009年3月31日)
- 2006年4月1日 法人化担当参事3級を配置
(～2008年3月31日)
- 2008年4月1日 公立大学法人公立はこだて未来大学を設立
メタ学習センターを設置
- 2009年4月1日 事務局を再編:
2課体制(総務課、教務課)→
3課体制(企画総務課、財務・研究支援課、教務課)
- 2010年4月1日 複雑系科学科と情報アーキテクチャ学科を情報アーキテクチャ学科と複雑系知能学科に再編
大学・大学院一貫(6年制)の高度ICTコースを開設
- 2012年4月1日 共同研究センターを社会連携センターに発展改組
- 2015年4月1日 情報システムデザインセンターを設置
- 2017年4月1日 未来AI研究センターを設置

3. 教職員数の推移 (2010年度～)

年 度	教員 (うち外国人数)	事務局			
		職員	契約職員	臨時 契約職員	計
2010年度 (平成22年度)	68(12)	21	25	6	52
2011年度 (平成23年度)	70(11)	21	22	5	48
2012年度 (平成24年度)	70(10)	21	21	6	48
2013年度 (平成25年度)	69(10)	21	29	1	51
2014年度 (平成26年度)	68(10)	21	29		50
2015年度 (平成27年度)	70(10)	23	25		48
2016年度 (平成28年度)	69(10)	22	25	3	50
2017年度 (平成29年度)	69(10)	24	24	1	49
2018年度 (平成30年度)	69(10)	25	21		46
2019年度 (平成31年度)	72(10)	25	22	4	51
2020年度 (令和2年度)	70(10)	26	24	2	52

※各年度5月1日現在

※契約職員の人数は、普通契約職員・短時間契約職員の人数を記載している。

04 | 役職者・名誉教授・教員一覧

1. 役職者（2010年度～）

職 名		年度										
		2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)
法人役員	理事長	中島 秀之					片桐 恭弘					
	副理事長	岩田 州夫		高橋 修			松原 仁				川嶋 稔夫	
	理事	小西 修		片桐 恭弘			川嶋 稔夫				平田 圭二	
	理事	西濱 晴二	鈴木 敏博			政田 郁夫			藤田 秀樹		佐藤 任	
	理事(非常勤)	白鳥 則郎				伊東 幸宏						
学長		中島 秀之					片桐 恭弘					
副学長		小西 修		片桐 恭弘			川嶋 稔夫				川嶋 稔夫 平田 圭二 三上 貞芳 鈴木 恵二	
部局長	複雑系知能学科長	片桐 恭弘		村重 淳		平田 圭二		鈴木 恵二		中田 隆行		佐藤 直行
	情報アーキテクチャ学科長	岡本 誠				藤野 雄一		美馬 義亮		大場 みち子		木村 健一
	研究科長	上野 嘉夫		三上 貞芳			岡本 誠		平田 圭二		稲村 浩	
	情報ライブラリー長	川嶋 稔夫								中田 隆行		三上 貞芳
	共同研究センター長	高橋 修		社会連携センターへ発展改組								
	社会連携センター長				藤野 雄一		田柳 恵美子					鈴木 恵二
	メタ学習センター長	美馬 のゆり		片桐 恭弘		マイケル・ヴァランス		平田 圭二		富永 敦子		
	情報システムデザインセンター長						高橋 信行					大場みち子
事務局	事務局長	西濱 晴二	鈴木 敏博			政田 郁夫			藤田 秀樹		佐藤 任	
	企画総務課長	鶴喰 誠		蛭子井 慶治			佐藤 善則		杉村 はるみ			
	財務・研究支援課長	和久井 直哉			相馬 直仁							
	教務課長	松塚 康輔	五十嵐 陽子	加納 俊一		亀田 聖一						

2. 名誉教授

授与年月日	氏名	専門分野	採用年月日	退職年月日	備考
2007年4月1日	伊東 敬祐	非線形科学	2000年4月1日	2004年3月31日	初代学長
2007年4月1日	塚原 保夫	情報生物学、脳科学、時間生物学	2000年4月2日	2007年3月31日	
2007年4月1日	八木 大彦	ヒューマン・インターフェース・デザイン	2000年4月1日	2007年3月31日	
2008年4月1日	上見 練太郎	偏微分方程式論	2001年4月2日	2008年3月31日	
2010年4月1日	宮本 衛市	計算機言語、ソフトウェア工学、分散処理	2000年4月1日	2010年3月31日	
2010年4月1日	三浦 守	知的デジタル信号処理、ニューロコンピューティング	2001年4月2日	2010年3月31日	
2011年4月1日	三木 信弘	音声情報処理、音響メディア、システムシミュレーション	2000年4月1日	2011年3月31日	
2011年5月1日	長野 章	水産工学、海岸工学	2003年5月1日	2011年4月30日	
2012年4月1日	岩田 州夫	インダストリアルデザイン	2000年4月1日	2012年3月31日	
2012年4月1日	小西 修	複雑系情報学	2002年4月2日	2012年3月31日	
2014年4月1日	山本 敏雄	インタフェースデザイン、パーセプショナルデザイン	2000年4月1日	2013年3月31日	
2016年4月1日	中島 秀之	人工知能、情報学	2004年4月1日	2016年3月31日	第2代学長、名誉学長
2016年4月1日	高橋 修	ユビキタスネットワーク工学、モバイルコンピューティング	2004年4月1日	2016年3月31日	

04 | 役職者・名誉教授・教員一覧

3. 教員一覧 (2010年度～)

※所属 C:複雑系知能学科 M:情報アーキテクチャ学科 R:社会連携センター L:メタ学習センター

※職名 2020年4月1日現在

氏 名	所属	職 名	採用年月日	在籍年度															
				10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20					
片桐 恭弘		理事長・学長	2005年9月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
川嶋 稔夫	M	副理事長・教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
平田 圭二	C	副学長・教授	2011年4月1日		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
三上 貞芳	C	副学長・教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
鈴木 恵二	C	副学長・教授	2000年4月1日/2015年4月1日						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ウラジミール・リアボフ	C	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
大澤 英一	C	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
川越 敏司	C	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
櫻沢 繁	C	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
鈴木 昭二	C	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
イアン・フランク	C	教授	2001年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
川口 聡	C	教授	2002年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
齊藤 朝輝	C	教授	2002年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高橋 信行	C	教授	2002年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
花田 光彦	C	教授	2004年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
由良 文孝	C	教授	2005年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
中田 隆行	C	教授	2007年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
佐藤 直行	C	教授	2009年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
角 康之	C	教授	2011年4月1日		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
加藤 浩仁	C	准教授	2003年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
竹之内 高志	C	准教授	2012年4月1日			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高木 清二	C	准教授	2014年4月1日					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
香取 勇一	C	准教授	2015年4月1日						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
寺井 あすか	C	准教授	2016年4月1日							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
村井 源	C	准教授	2017年4月1日								●	●	●	●	●	●	●	●	●
田中 吉太郎	C	准教授	2018年4月1日									●	●	●	●	●	●	●	●
佐々木 博昭	C	准教授	2019年4月1日										●	●	●	●	●	●	●
伊藤 精英	M	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
岡本 誠	M	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
木村 健一	M	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
長崎 健	M	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美馬 のゆり	M	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美馬 義亮	M	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
柳 英克	M	教授	2000年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
佐藤 仁樹	M	教授	2002年10月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
迎山 和司	M	教授	2003年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
和田 雅昭	M	教授	2005年1月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マイケル・ヴァランス	M	教授	2005年10月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
白石 陽	M	教授	2009年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
大場 みち子	M	教授	2010年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
姜 晁鴻	M	教授	2010年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
藤野 雄一	M	教授	2010年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
角 薫	M	教授	2011年4月1日		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
原田 泰	M	教授	2012年4月1日			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
稲村 浩	M	教授	2016年4月1日							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
中小路 久美代	M	教授	2019年4月1日										●	●	●	●	●	●	●
山本 恭裕	M	特任教授	2019年4月1日											●	●	●	●	●	●
伊藤 恵	M	准教授	2001年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新美 礼彦	M	准教授	2002年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
奥野 拓	M	准教授	2005年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
南部 美砂子	M	准教授	2005年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
P・ルースベン・スチュアート	M	准教授	2005年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
姜 南圭	M	准教授	2007年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
白勢 政明	M	准教授	2008年9月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アンドリュー・ジョンソン	M	准教授	2009年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
寺沢 憲吾	M	准教授	2009年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ドミニク・K・バゲンダ	M	准教授	2009年4月1日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

氏 名	所属	職 名	採用年月日	在籍年度																
				10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20						
中村 嘉隆	M	准教授	2011 年 4 月 1 日		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
佐藤 生馬	M	准教授	2012 年 4 月 1 日			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
竹川 佳成	M	准教授	2012 年 4 月 1 日			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
安井 重哉	M	准教授	2012 年 4 月 1 日			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
塚田 浩二	M	准教授	2013 年 4 月 1 日				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
松原 克弥	M	准教授	2016 年 4 月 1 日							●	●	●	●	●	●	●	●			
田柳 恵美子	R	教授	2008 年 5 月 1 日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
ダミアン・リヴァーズ	L	教授	2014 年 4 月 1 日					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
富永 敦子	L	教授	2014 年 9 月 1 日					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
宮本 エジソン正	L	教授	2018 年 4 月 1 日										●	●	●	●	●			
アダム・スミス	L	准教授	2011 年 4 月 1 日		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
中村 美智子	L	准教授	2012 年 1 月 1 日		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
辻 義人	L	准教授	2017 年 4 月 1 日									●	●	●	●	●	●			

4. 退職者一覧 (2010年度～)

※所属 C:複雑系知能学科 M:情報アーキテクチャ学科 L:メタ学習センター
 ※職名 退職時の職名 ※2010.3.31の退職者を含む

氏 名	所属	職 名	採用年月日	退職年月日	在籍年度																
					10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20						
中島 秀之		理事長・学長	2004年 4 月 1 日	2016年 3 月31日	●	●	●	●	●	●											
岩田 州夫	M	副理事長・特任教授	2000年 4 月 1 日	2012年 3 月31日	●	●															
小西 修	C	副学長・教授	2002年 4 月 2 日	2012年 3 月31日	●	●															
高橋 修	M	副理事長・教授	2004年 4 月 1 日	2016年 3 月31日	●	●	●	●	●	●											
松原 仁	M	副理事長・教授	2000年 4 月 1 日	2020年 3 月31日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
小野 瞭	C	教授	2004年 4 月 1 日	2011年12月10日	●	●															
齊藤 郁夫	C	教授	2002年10月 1 日	2013年 3 月31日	●	●	●														
高村 博之	C	教授	2003年 9 月 1 日	2018年 3 月31日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
上野 嘉夫	C	教授	2005年 4 月 1 日	2014年 9 月30日	●	●	●	●	●												
村重 淳	C	教授	2007年 4 月 1 日	2014年 3 月31日	●	●	●	●													
中垣 俊之	C	教授	2010年 4 月 1 日	2014年 9 月30日	●	●	●	●	●												
ホセ・ナチエル	C	准教授	2007年 4 月 1 日	2012年 3 月31日	●	●															
永野 清仁	C	准教授	2013年 4 月 1 日	2017年 3 月31日				●	●	●	●										
田中 健一郎	C	助教	2011年 4 月 1 日	2015年 3 月31日		●	●	●	●	●											
宮本 衛市	M	教授	2000年 4 月 1 日	2010年 3 月31日																	
三木 信弘	M	教授	2000年 4 月 1 日	2011年 3 月31日	●																
山本 敏雄	M	教授	2000年 4 月 1 日	2013年 3 月31日	●	●	●														
三浦 守	M	教授	2001年 4 月 2 日	2010年 3 月31日																	
鈴木 克也	M	教授	2001年 4 月 1 日	2011年 3 月31日	●																
長野 章	M	教授	2003年 5 月 1 日	2011年 4 月30日	●	●															
マルコム・フィールド	M	教授	2003年10月 1 日	2013年 3 月31日	●	●	●														
高木 剛	M	教授	2005年 4 月 1 日	2010年 3 月31日																	
寺沢 秀雄	M	教授	2005年 4 月 1 日	2011年12月20日	●	●															
戸田 真志	M	准教授	2001年 4 月 1 日	2012年 3 月31日	●	●															
デーヴィット・ライト	M	准教授	2004年 4 月 1 日	2010年 7 月31日	●																
ピトヨ・ハルトノ	M	准教授	2005年 4 月 1 日	2010年 9 月30日	●																
藤田 篤	M	准教授	2009年 4 月 1 日	2014年 3 月31日	●	●	●	●													
神谷 年洋	M	准教授	2010年 4 月 1 日	2015年 9 月30日	●	●	●	●	●	●											
リアン・W・ラムゼイ	M	講師	2000年 4 月 1 日	2010年 3 月31日																	
光藤 雄一	M	助教	2005年 4 月 1 日	2010年 3 月31日																	
松山 克胤	M	助教	2005年 4 月 1 日	2011年 3 月31日	●																
木塚 あゆみ	M	特任助教	2013年 6 月 1 日	2017年 3 月31日				●	●	●	●										
高 博昭	M	助教	2015年 4 月 1 日	2020年 3 月21日						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
大塚 裕子	L	准教授	2011年 4 月 1 日	2016年 3 月31日		●	●	●	●	●	●										
椿本 弥生	L	准教授	2011年 4 月 1 日	2017年 8 月31日		●	●	●	●	●	●	●	●	●							
沼田 寛	L	講師	2000年 4 月 1 日	2014年 3 月31日	●	●	●	●													

05 | 施設概要

1 土地

所在地：函館市亀田中野町116番地2

敷地面積：155,023.75㎡

内訳／多目的フィールド・テニスコート、駐車場、本部棟、研究棟、交流広場等

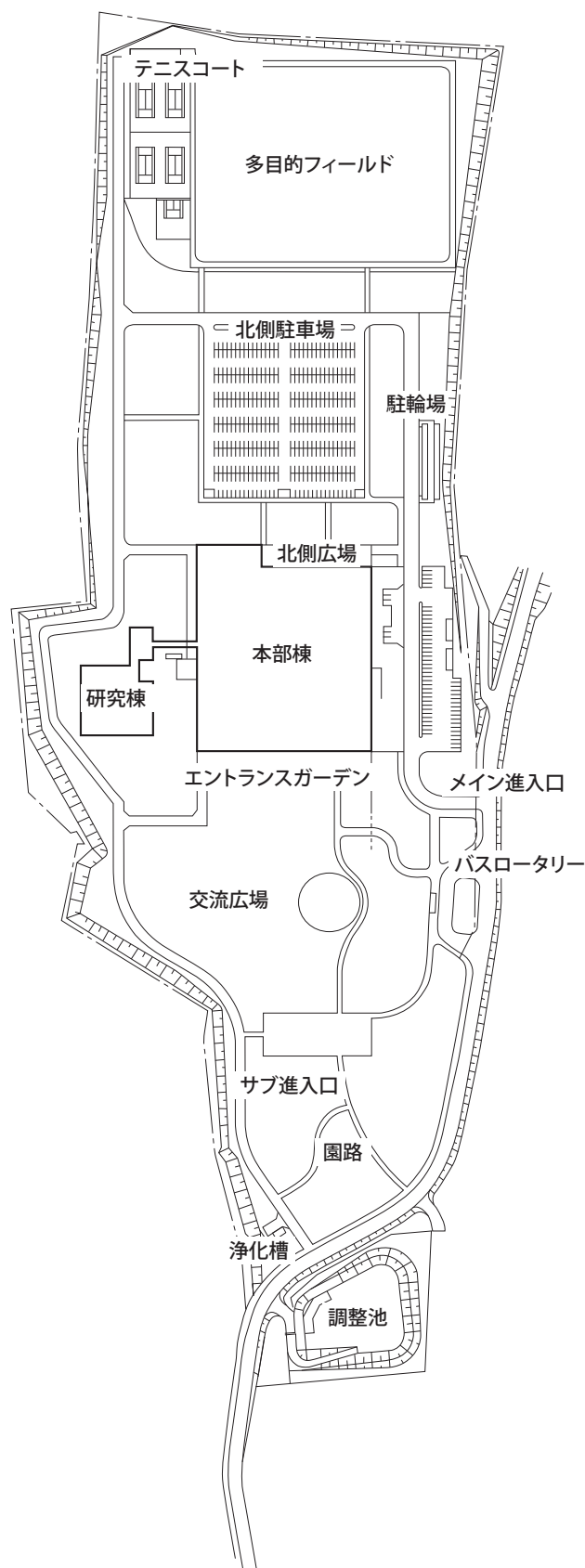
2 建物

① 本部棟

- ・建築面積：13,287.03㎡
 - ・延床面積：26,839.55㎡
 - ・構造：プレキャストコンクリート造 5 階建
 - ・設置費：約140億円
- 内訳／建物・用地造成工事約111億円
設備・図書約15億円
用地取得等約14億円

② 研究棟

- ・建築面積：3,162.23㎡
 - ・延床面積：4,383.51㎡
 - ・構造：鉄骨造一部鉄筋コンクリート造 2 階建
 - ・設置費：約15億円
- 内訳／建物・外構工事約10億円
設備約5億円



STUDIO スタジオ



1階から5階まで吹き抜けとなった
「スタジオ」と呼ばれるオープンスペース



プレゼンテーションペイ



デルダビスタ

MALL モール



本部棟から研究棟に向かって真っ直ぐに延びる
吹き抜けの空間



ミュージアム



体育館

WORKSHOP

工房・エレクトロニクス工房



LIBRARY

情報ライブラリー



RESEARCH BUILDING

研究棟



函館市国際水産・海洋総合研究センターにサテライトラボ開設



所在地：函館市弁天町20番5号

2014年6月にオープンした函館市国際水産・海洋総合研究センター内に、公立はこだて未来大学サテライトラボ(通称サテラボ)が開設されました。同センターは、水産・海洋に関する学術研究拠点として、大学や企業の研究室を集積し、セミナー等の学術交流、産学官連携研究や起業化を促進することを目指し、函館市が設置したものです。サテラボには、マリンITを牽引する和田雅昭教授をはじめ、海洋生物等の運動メカニズムの解明などに取り組む櫻沢繁教授、高木清二准教授が研究室を開設し、マリンサイエンス、バイオサイエンス系に特化した研究環境で、研究活動に取り組んでいます。

06 | 学部データ

1. 入学志願者数・受験者数・合格者数・入学者数の推移 (2011年度～)

年度	入試	学部 学科	定員 [A]	志願者 [B]	受験者 [C]	合格者 [D]	入学者	倍率 [B/A]	競争率 [C/D]
2011年度 (平成23年度)	A O		20	59	58	26	26	3.0	2.2
	推薦	指定校	10	10	10	10	10	1.0	1.0
		地域	45	87	87	50	50	1.9	1.7
		全国	5	11	11	5	5	2.2	2.2
	前期		135	355	335	173	144	2.6	1.9
	後期		25	124	69	27	17	5.0	2.6
	合計		240	646	570	291	252	2.7	2.0
2012年度 (平成24年度)	A O		20	54	54	34	34	2.7	1.6
	推薦	指定校	10	8	8	8	8	0.8	1.0
		地域	45	73	73	48	48	1.6	1.5
		全国	5	9	9	4	4	1.8	2.3
	前期		135	508	472	163	142	3.8	2.9
	後期		25	114	65	25	14	4.6	2.6
	合計		240	766	681	282	250	3.2	2.4
2013年度 (平成25年度)	A O		20	77	77	40	40	3.9	1.9
	推薦	指定校	10	8	8	8	8	0.8	1.0
		地域	45	75	75	49	49	1.7	1.5
		全国	5	8	8	6	6	1.6	1.3
	前期		135	487	462	157	134	3.6	2.9
	後期		25	156	84	25	11	6.2	3.4
	合計		240	811	714	285	248	3.4	2.5
2014年度 (平成26年度)	A O		20	80	80	36	36	4.0	2.2
	推薦	指定校	10	9	9	9	9	0.9	1.0
		地域	45	83	82	49	49	1.8	1.7
		全国	5	7	7	4	4	1.4	1.8
	前期		135	433	414	160	139	3.2	2.6
	後期		25	116	67	25	18	4.6	2.7
	合計		240	728	659	283	255	3.0	2.3
2015年度 (平成27年度)	A O		20	67	67	28	28	3.4	2.4
	推薦	指定校	10	6	6	6	6	0.6	1.0
		地域	45	85	85	48	48	1.9	1.8
		全国	5	17	17	7	7	3.4	2.4
	前期		135	524	493	177	158	3.9	2.8
	後期		25	101	60	25	12	4.0	2.4
	合計		240	800	728	291	259	3.3	2.5

年度	入試	学部 学科	定員 [A]	志願者 [B]	受験者 [C]	合格者 [D]	入学者	倍率 [B/A]	競争率 [C/D]
2016年度 (平成28年度)	A O		20	55	55	30	30	2.8	1.8
	推薦	指定校	10	10	10	10	10	1.0	1.0
		地域	45	71	71	47	47	1.6	1.5
		全国	5	8	8	7	7	1.6	1.1
	前期		135	702	651	148	114	5.2	4.4
	後期		25	126	63	30	18	5.0	2.1
	合計		240	972	858	272	226	4.1	3.2
2017年度 (平成29年度)	A O		20	52	52	34	34	2.6	1.5
	推薦	指定校	10	8	8	8	8	0.8	1.0
		地域	45	70	70	45	45	1.6	1.6
		全国	5	22	22	11	11	4.4	2.0
	前期		135	580	544	156	134	4.3	3.5
	後期		25	236	111	34	14	9.4	3.3
	合計		240	968	807	288	246	4.0	2.8
2018年度 (平成30年度)	A O		20	73	72	36	36	3.7	2.0
	推薦	指定校	10	9	9	9	9	0.9	1.0
		地域	45	81	81	45	45	1.8	1.8
		全国	5	40	40	13	13	8.0	3.1
	前期		135	525	499	156	139	3.9	3.2
	後期		25	184	109	25	13	7.4	4.4
	合計		240	912	810	284	255	3.8	2.9
2019年度 (平成31年度)	A O		20	55	54	30	30	2.8	1.8
	推薦	指定校	10	8	8	8	8	0.8	1.0
		地域	45	72	72	46	46	1.6	1.6
		全国	5	16	16	10	10	3.2	1.6
	前期		135	513	487	159	141	3.8	3.1
	後期		25	157	94	28	13	6.3	3.4
	合計		240	821	731	281	248	3.4	2.6
2020年度 (令和2年度)	A O		20	60	60	32	32	3.0	1.9
	推薦	指定校	10	9	9	9	9	0.9	1.0
		地域	40	95	95	40	40	2.4	2.4
		全国	10	23	23	11	11	2.3	2.1
	前期		135	514	489	165	148	3.8	3.0
	後期		25	62	36	18	12	2.5	2.0
	合計		240	763	712	275	252	3.2	2.6

06 | 学部データ

2. 都道府県別入学者数の推移 (2011年度～)

都道府県	2011年度 (平成23年度)			2012年度 (平成24年度)			2013年度 (平成25年度)			2014年度 (平成26年度)			2015年度 (平成27年度)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
北海道	136	37	173	129	32	161	127	27	154	152	22	174	119	26	145
渡島檜山	32	13	45	28	12	40	21	9	30	27	9	36	27	13	40
その他	104	24	128	101	20	121	106	18	124	125	13	138	92	13	105
東北	19	9	28	27	12	39	40	14	54	26	12	38	29	17	46
青森県	15	5	20	20	11	31	36	10	46	15	11	26	21	9	30
岩手県	1		1	3		3	1	2	3	5	1	6	3	6	9
宮城県				1	1	2				3		3	2		2
秋田県		3	3	2		2	3	1	4	1		1	2	1	3
山形県	3		3	1		1				1		1	1	1	2
福島県		1	1					1	1	1		1			
関東	6	1	7	10	3	13	7	2	9	5	1	6	17	1	18
茨城県	3		3	2	1	3	1		1	1		1	6	1	7
栃木県				1		1		1	1		1	1	2		2
群馬県	1		1		1	1									
埼玉県					1	1	2		2				1		1
千葉県		1	1				2		2				1		1
東京都	2		2	5		5	2	1	3	4		4	2		2
神奈川県				2		2							5		5
北陸・甲信越	7	1	8	4	1	5	2	2	4	5		5			
新潟県	2		2		1	1		1	1	1		1			
富山県	2		2	1		1				1		1			
石川県	1	1	2	1		1		1	1	1		1			
福井県	1		1							1		1			
山梨県							1		1						
長野県	1		1	2		2	1		1	1		1			
東海	4	3	7	7		7	12	1	13	11	2	13	25	3	28
岐阜県	1	1	2				4		4	1	1	2	6	1	7
静岡県	1	1	2	4		4	3	1	4	6		6	8	2	10
愛知県	2	1	3	3		3	5		5	4	1	5	11		11
近畿	12	3	15	14	3	17	8	2	10	13	3	16	15	2	17
三重県													2	1	3
滋賀県	1		1												
京都府	1		1	3	1	4	2	1	3	6	2	8	4		4
大阪府	5		5	1		1	2	1	3	3	1	4	2	1	3
兵庫県	2	2	4	7	2	9	1		1	4		4	3		3
奈良県							1		1				2		2
和歌山県	3	1	4	3		3	2		2				2		2
中国	3		3	1		1	1		1	1		1	1		1
鳥取県							1		1						
島根県	1		1							1		1			
岡山県															
広島県	1		1	1		1							1		1
山口県	1		1												
四国	3		3	2		2	2		2	1		1	1		1
徳島県	1		1				1		1						
香川県															
愛媛県	2		2	2		2	1		1	1		1	1		1
高知県															
九州・沖縄	8		8	5		5				1		1	1	1	2
福岡県	4		4												
佐賀県	1		1	1		1									
長崎県										1		1			
熊本県	2		2											1	1
大分県															
宮崎県	1		1	1		1							1		1
鹿児島県				1		1									
沖縄県				2		2									
その他							1		1				1		1
計	198	54	252	199	51	250	200	48	248	215	40	255	209	50	259

2016年度(平成28年度)			2017年度(平成29年度)			2018年度(平成30年度)			2019年度(平成31年度)			2020年度(令和2年度)			総 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
120	27	147	118	26	144	110	23	133	110	15	125	114	23	137	1,235	258	1,493
22	10	32	22	9	31	21	10	31	18	6	24	22	7	29	240	98	338
98	17	115	96	17	113	89	13	102	92	9	101	92	16	108	995	160	1,155
26	10	36	34	10	44	26	15	41	45	5	50	37	17	54	309	121	430
18	7	25	26	6	32	18	8	26	32	3	35	22	13	35	223	83	306
5	1	6	1	3	4	7	2	9	5	1	6	8	1	9	39	17	56
1	2	3	4		4	1	1	2				6	1	7	18	5	23
2		2	2	1	3		3	3	2		2				14	9	23
			1		1		1	1	4	1	5		2	2	11	5	16
									2		2	1		1	4	2	6
8	4	12	10	2	12	20	2	22	11	8	19	8	2	10	102	26	128
2	2	4	3		3	6		6	2		2	1		1	27	4	31
	1	1	1		1	2		2	2	1	3	1	1	2	9	5	14
										1	1	1		1	2	2	4
			1	1	2	1		1	1	1	2				6	3	9
1		1				1		1							5	1	6
2	1	3	3	1	4	4	1	5	2	2	4	5	1	6	31	7	38
3		3	2		2	6	1	7	4	3	7				22	4	26
1	1	2	4	2	6	4		4	2	1	3	6		6	35	8	43
			1		1	2		2							6	2	8
															4		4
			2	1	3							3		3	8	3	11
									1		1				3		3
1	1	2							1	1	2	2		2	5	2	7
			1	1	2	2		2				1		1	9	1	10
9	1	10	19	4	23	20	4	24	20	3	23	12	3	15	139	24	163
4		4	3	2	5	7		7	4	1	5	2	3	5	32	9	41
1		1	5		5	3	1	4	3	1	4	3		3	37	6	43
4	1	5	11	2	13	10	3	13	13	1	14	7		7	70	9	79
10		10	8	2	10	16	3	19	16	2	18	13	3	16	125	23	148
1		1	1	1	2				2		2				6	2	8
									1		1				2		2
2		2	2		2	2		2	5		5	4		4	31	4	35
2		2	2		2	7	1	8	3	1	4	5	1	6	32	6	38
3		3	1		1	2	1	3	3	1	4	3		3	29	6	35
						5	1	6	1		1	1		1	10	1	11
2		2	2	1	3				1		1		2	2	15	4	19
3		3	2		2	2	1	3	1		1	3	1	4	18	2	20
						1		1							2		2
															2		2
1		1				1	1	2	1		1	2		2	5	1	6
2		2	1		1							1	1	2	7	1	8
			1		1										2		2
	1	1	1		1	1	1	2	1	1	2				12	3	15
															2		2
	1	1	1		1	1	1	2	1	1	2				10	3	13
3	2	5	1		1	5		5	1	2	3	3		3	28	5	33
			1		1	1		1							6		6
															2		2
1		1													2		2
1		1							1	1	2	1		1	5	2	7
										1	1	1		1	1	1	2
	1	1													3	1	4
						3		3							4		4
1	1	2				1		1				1		1	5	1	6
			3		3	2		2	1	3	4	5	2	7	13	5	18
180	46	226	200	46	246	206	49	255	208	40	248	201	51	252	2,016	475	2,491

06 | 学部データ

4. 卒業生の進路状況 (2010年度～)

年度	卒業生数 (3月卒業)	民間企業就職者			大学院進学者		その他	
		希望者数 (割合)	就職者数	就職率	人数	割合	人数	割合
2010年度(8期生)	236	145 (61.4%)	137	94.5%	69	29.2%	22	9.3%
2011年度(9期生)	229	169 (73.8%)	163	96.5%	46	20.1%	14	6.1%
2012年度(10期生)	213	155 (72.8%)	152	98.1%	41	19.3%	17	8.0%
2013年度(11期生)	229	162 (70.7%)	156	96.3%	47	20.5%	20	8.7%
2014年度(12期生)	218	169 (77.5%)	164	97.0%	35	16.1%	14	6.4%
2015年度(13期生)	213	153 (71.8%)	149	97.4%	52	24.4%	8	3.8%
2016年度(14期生)	200	126 (63.0%)	125	99.2%	59	29.5%	15	7.5%
2017年度(15期生)	232	161 (69.4%)	157	97.5%	49	21.1%	22	9.5%
2018年度(16期生)	210	149 (71.0%)	145	97.3%	44	21.0%	17	8.1%
2019年度(17期生)	214	141 (65.9%)	137	97.2%	56	26.2%	17	7.9%
合 計	2,194	1,530 (69.7%)	1,485	97.1%	498	22.7%	166	7.6%

※1 割合は各々卒業生数に対する割合 ※2 専門学校進学者および公務員希望者はその他に含む

① 民間企業就職者の状況／本社所在地別内訳(2010年度～)

年度	総数	函館	札幌	その他道内	東北	首都圏	中部	北陸	関西	中国	四国	九州
2010年度 (8期生)	137	13 9.5%	38 27.7%	4 2.9%	5 3.6%	68 49.6%	5 3.6%		3 2.2%	1 0.7%		
2011年度 (9期生)	163	10 6.1%	40 24.5%	4 2.5%	6 3.7%	93 57.1%	7 4.3%		3 1.8%			
2012年度 (10期生)	152	23 15.1%	26 17.1%	4 2.6%	2 1.3%	90 59.2%	6 3.9%					
2013年度 (11期生)	156	14 9.0%	36 23.1%	3 1.9%	6 3.8%	88 56.4%	5 3.2%		3 1.9%		1 0.6%	
2014年度 (12期生)	164	22 13.4%	34 20.7%	4 2.4%	1 0.6%	100 61.0%	3 1.8%					
2015年度 (13期生)	149	9 6.0%	35 23.5%	3 2.0%	2 1.3%	94 63.1%	4 2.7%		2 1.3%			
2016年度 (14期生)	126	8 6.3%	27 21.4%	1 0.8%	3 2.4%	81 64.3%	1 0.8%		4 3.2%			
2017年度 (15期生)	157	12 7.6%	40 25.5%	4 2.5%	4 2.5%	92 58.6%	3 1.9%	2 1.3%				
2018年度 (16期生)	145	5 3.4%	22 15.2%		4 2.8%	100 69.0%	5 3.4%		2 1.4%			
2019年度 (17期生)	137	6 4.4%	24 17.5%		1 0.7%	92 67.2%	3 2.2%		3 2.2%			
合計	1,486	122 8.2%	322 21.7%	27 1.8%	34 2.3%	898 60.4%	42 2.8%	2 0.1%	20 1.3%	1 0.1%	1 0.1%	

※総数については、上記項目以外も含む

② 民間企業就職者の状況／業種別内訳(2010年度～)

年度	総数	情報 サービス業	製造業	流通・通信 小売・卸売	出版・印刷	マスコミ 放送・広告	金融・証券	その他 サービス業	その他
2010年度 (8期生)	137	99 72.3%	6 4.4%	9 6.6%		1 0.7%	1 0.7%	10 7.3%	11 8.0%
2011年度 (9期生)	163	127 77.9%	5 3.1%	16 9.8%	2 1.2%		2 1.2%	6 3.7%	5 3.1%
2012年度 (10期生)	152	106 69.7%	12 7.9%	15 9.9%	1 0.7%		3 2.0%	10 6.6%	5 3.3%
2013年度 (11期生)	156	113 72.4%	1 0.6%	18 11.5%		1 0.6%	6 3.8%	8 5.1%	9 5.8%
2014年度 (12期生)	164	128 78.0%	2 1.2%	11 6.7%	2 1.2%	2 1.2%	5 3.0%	7 4.3%	7 4.3%
2015年度 (13期生)	149	128 85.9%	3 2.0%	9 6.0%	2 1.3%		1 0.7%	3 2.0%	3 2.0%
2016年度 (14期生)	125	111 88.8%	4 3.2%	5 4.0%	1 0.8%			3 2.4%	1 0.8%
2017年度 (15期生)	157	136 86.6%	4 2.5%	8 5.1%	1 0.6%	2 1.3%		2 1.3%	4 2.5%
2018年度 (16期生)	145	113 77.9%	3 2.1%	4 2.8%			1 0.7%	9 6.2%	15 10.3%
2019年度 (17期生)	137	98 71.5%	8 5.8%	3 2.2%	-	-	-	9 6.6%	19 13.9%
合計	1,485	1,159 78.1%	48 3.2%	98 6.6%	9 0.6%	6 0.4%	19 1.3%	67 4.5%	79 5.3%

※17期より以下のとおり経産省「業務分類」に合わせ、区分の見直しを行った。「情報サービス業」を「情報通信業」として区分、「マスコミ・放送」を含む。「流通・通信・小売・卸売」を「卸売・小売業」として区分。「広告」は「その他サービス業」に含む(Web広告業については情報通信業に区分)。

③ 学部卒業生の主な民間企業就職先一覧(2010年度～)

●北海道内企業

アイシン・ソフトウェア(旧 エイ・ダブリュ・ソフトウェア)、i D、アドヴァンスト・ソフト・エンジニアリング、インフォテクノ、HBA、エスイーシー、SOC、SCSK 北海道、NTT データ北海道、エヌディーキューブ、シーエスアイ、シーズ・ラボ、ジャパンテクニカルソフトウェア、生活協同組合コープさっぽろ、つうけんアドバンスシステムズ、DCM ホームマック、日本アイ・ビーエムデジタルサービス(旧 日本アイビーエム・ソリューション・サービス)、HARP、函館五稜郭病院、北海道日立システムズ、北都システム、ほくでん情報テクノロジー、モロオ、リコー IT ソリューションズ、練成会グループ

●北海道外企業

アイスタイル、IDC フロンティア、アクセンチュア、アドウェイズ、インフォコム、SCSK、SCC、NEC 航空宇宙システム、NEC ソリューションイノベーション、NTT データ、NTT データ MSE、NTT データ・アイ、NRI システムテクノ、グッドバッチ、コア、サイバーエージェント、シイエヌエス、JAL インフォテック、新日鉄住金ソリューションズ、セガゲームス、総合警備保障、ソフトバンク、ダイヤモンドヘッド、TDC ソフト、TIS、DNP 情報システム、DSB 情報システム、東京海上日動システムズ、凸版印刷、トヨタテクニカルディベロップメント、ドリコム、ナビタイムジャパン、日鉄日立システムエンジニアリング、日本コンピュータ開発、日本ビジネスシステムズ、ハイマックス、パナソニック ITS、バリューソフトウェア、日立システムズ、富士通エフサス、富士通ビー・エス・シー、プロトコーポレーション、丸紅 IT リューションズ、ミツエーリンクス、三菱 UFJ インフォメーションテクノロジー、三菱スペース・ソフトウェア、ヤフー、楽天、ラック、レコチョク、レバレージズ

④ 大学院への進学状況

●国公立大学

茨城大学、岡山県立大学、九州工業大学、公立はこだて未来大学、筑波大学、東京都立産業技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、福井大学、北陸先端科学技術大学院大学、北海道大学、山梨大学、横浜国立大学(各大学院)

●私立大学

情報セキュリティ大学院大学、チューリッヒ芸術大学(各大学院)

06 | 学部データ

5. 入学試験制度の変遷

全体

2000 募集人員

	AO	推薦	前期	後期	合計
複雑	-	24	40	16	80
情ア	-	48	80	32	160
合計	-	72	120	48	240

2001 募集人員の変更(AO、推薦)

	AO	推薦	前期	後期	合計
複雑	4	20	40	16	80
情ア	8	40	80	32	160
合計	12	60	120	48	240

2002 募集人員の変更(推薦、前期)

	AO	推薦	前期	後期	合計
複雑	4	16	45	15	80
情ア	8	32	90	30	160
合計	12	48	135	45	240

2006 学部一括入試(2年進級時に各学科へ配属)
各入試の募集人員は2002年度と同様

	AO	推薦	前期	後期	合計
学部	12	48	135	45	240

2007 募集人員の変更(前期以外)

	AO	推薦	前期	後期	合計
学部	20	60	135	25	240

2010 推薦入試の3区分化

2011 指定校10、

2012 地域枠(北海道、青森県)45、

2013 全国枠5

2014

2015

2016

2017

2018

2019 推薦区分別の定員変更

2020 指定校10、
地域枠(北海道、青森県)40、
全国枠10

年度	AO	推薦	一般前期	一般後期
2000年度 (平成12年度)	実施なし	出願資格:北海道および青森地域 広域事務組合構成体内の高等学校 試験科目:小論文、面接 試験日数:1日	試験科目等 ・センター試験:課さない ・個別学力検査:数学、英語、選択 (数学、物理、生物、デザイン実技、 科学一般から1科目) ・配点:300点(各100) ・時間:各90分	試験科目等 ・センター試験:課さない ・個別学力検査:数学、英語、選択 (デザイン実技、小論文から1科目) ・配点:350点(数100、英100、選 150) ・時間:数90分、英90分、選120分
2001年度 (平成13年度)	選抜方法 ・第一次選考:書類審査(ビデオま たは小論文、志望理由書等) ・第二次選考:面接 ・試験日数:1日		試験科目等 ・センター試験[2教科3科目]: 数学①(数学Ⅰ・A)、数学②(数学 Ⅱ・B)、英語 ・個別学力検査:「科学一般」が「小 論文(科学一般)」へ名称変更 ・配点:セ試:300点(各100) 個別:600点(各200) ・時間:各90分	試験科目等 ・センター試験[2教科3科目]: 数学①(数学Ⅰ・A)、数学②(数学 Ⅱ・B)、英語 ・個別学力検査:2000年度と同様 ・配点:セ試:300点(各100) 個別:600点(各200) ・時間:各90分
2002年度 (平成14年度)	選抜方法 ・第一次選考:2001年度と同様 ・第二次選考:基礎学力検査(数 学、英語)、面接 試験日:2日に変更	試験科目等 ・基礎学力検査(数学、英語) ・面接		
2003年度 (平成15年度)		試験日数:2日に変更		
2004年度 (平成16年度)				
2005年度 (平成17年度)	選抜方法 ・第一次選考:書類審査(ビデオ (小論文廃止)) ・第二次選考:2002年度と同様		試験科目等 ・「小論文(科学一般)」が「科学一 般」へ名称変更	
2006年度 (平成18年度)		出願資格:北海道および青森県内 の高等学校へ拡大	試験科目等 ・センター試験:英語(リスニングを課す)	試験科目等 ・センター試験:英語(リスニングを課す)
2007年度 (平成19年度)			試験科目等 ・個別学力検査:「科学一般」の廃止	試験科目等 ・個別学力検査を課さない
2008年度 (平成20年度)				
2009年度 (平成21年度)	選抜方法 ・志願者多数の場合、第一次選考 実施 ・基礎学力検査:英語、選択(数学、 情報科学、デザインから1科目) ・面接:自己推薦資料(ビデオ資料 またはプレゼンテーション資料)の 説明等を含む		試験科目等 ・センター試験[4教科5科目]:国 語(近代以降の文章のみ)、数学① (数学Ⅰ・A)、数学②(数学Ⅱ・Bま たは情報関係基礎から1科目)、理 科(物、化、生、地から1科目)、英 語 ・個別学力検査:数学、英語 ・配点:セ試:300点(各60) 個別:500点(数300、英200) ・時間:数120分、英90分	試験科目等 ・センター試験[4教科5科目]: 国語(近代以降の文章のみ)、数学 ①(数学Ⅰ・A)、数学②(数学Ⅱ・ Bまたは情報関係基礎から1科 目)、理科(物、化、生、地から1科 目)、英語 ・個別学力検査を課さない ・配点:セ試:500点(各100)

年度	AO	推薦	一般前期	一般後期
2010年度 (平成22年度)		推薦入試の3区分化 (指定校、全国枠を追加) 指定校 地域枠 全国枠 合計 学部 10 45 5 60 地域枠:北海道および青森県		
2011年度 (平成23年度)				
2012年度 (平成24年度)				
2013年度 (平成25年度)			試験科目等 ・個別学力検査:数学「選択問題」の出題範囲 変更前:「数学Ⅱ、B」又は「数学Ⅲ・C」 変更後:「数学Ⅰ、Ⅱ、A、B」又は「数学Ⅲ・C」	
2014年度 (平成26年度)				
2015年度 (平成27年度)	試験科目等 基礎学力検査:数学(旧課程履修者に配慮した出題範囲とする。これは、平成27年度入試のみに対応する経過措置である。)	試験科目等 ・センター試験〔4教科5科目または6科目〕 (1)数学① 旧課程履修者は、「旧数学Ⅰ・旧数学A」を受験することができる。 (2)数学② 旧課程履修者は、「旧数学Ⅱ・旧数学B」を受験することができる。 (3)理科 変更前:物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰまたは地学Ⅰから1科目選択 変更後:物理基礎、化学基礎、生物基礎もしくは地学基礎から2科目選択、または物理、化学、生物もしくは地学より1科目選択(なお、旧課程履修者は、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰまたは地学Ⅰから1科目を選択することができる。これは、平成27年度入試のみに対応する経過措置である。) ・個別学力検査: (1)数学「選択問題」の出題科目 変更前:「数学Ⅰ、Ⅱ、A、B」又は「数学Ⅲ・C」 変更後:「数学Ⅰ、Ⅱ、A、B」又は「数学Ⅲ」 (2)数学の出題範囲 平成27年度入試のみ、旧課程履修者に配慮した出題範囲とする。	試験科目等 ・センター試験〔4教科5科目または6科目〕 (1)数学① 旧課程履修者は、「旧数学Ⅰ・旧数学A」を受験することができる。 (2)数学② 旧課程履修者は、「旧数学Ⅱ・旧数学B」を受験することができる。 (3)理科 変更前:物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰまたは地学Ⅰから1科目選択 変更後:物理基礎、化学基礎、生物基礎もしくは地学基礎から2科目選択、または物理、化学、生物もしくは地学より1科目選択(なお、旧課程履修者は、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰまたは地学Ⅰから1科目を選択することができる。これは、平成27年度入試のみに対応する経過措置である。)	
2016年度 (平成28年度)	試験科目等 基礎学力検査:「情報科学」について、「5問出題中3問の選択解答」を「3問の必須解答」とした			
2017年度 (平成29年度)				
2018年度 (平成30年度)				
2019年度 (平成31年度)		推薦入試区分別の定員変更 変更前:指定校10、地域枠45、全国枠5 変更後:指定校10、地域枠40、全国枠10		
2020年度 (令和2年度)				

06 | 学部データ

6. プロジェクト学習* のテーマ一覧(*正式名称:システム情報科学実習)(2010年度～)

2010年度(平成22年度)

- 1 医療現場における情報デザインとシステム技術の展開
(担当教員:美馬義亮、南部美砂子、姜南圭、岩田州夫、藤野雄一)
- 2 地域のためのイベント支援サイト構築/運用プロジェクト
(担当教員:伊藤恵、美馬のゆり、大場みち子)
- 3 クラウド時代に向けたケータイサブリ
(担当教員:高橋修、新美礼彦、白石陽)
- 4 Catching wide band radio signals from Jupiter, Sun, and pulsars
(担当教員:ウラジミール・リアボフ、村重淳)
- 5 地域を活性化させるための公空間デザイン
(担当教員:木村健一、迎山和司、伊藤精英)
- 6 導電布を用いた筋電義手
(担当教員:櫻沢繁、戸田真志、中垣俊之)
- 7 小学生のためのエデュテインメントシステム製作プロジェクト
(担当教員:戸田真志、山本敏雄)
- 8 函館観光シンボルロボット2010
(担当教員:松原仁、柳英克、神谷年洋)
- 9 外国人観光客のための多言語函館観光情報サービス
(担当教員:片桐恭弘、藤田篤、松原仁)
- 10 地域に根ざした数理科学教育
(担当教員:高村博之、上野嘉夫、大澤英一)
- 11 バーチャル空間へのアクセスインタフェース開発プロジェクト
(担当教員:ビトヨ・ハルトノ、加藤浩仁、岡本誠、佐藤直行、大澤英一)
- 12 モノを動かすソフトウェア
(担当教員:長崎健、佐藤仁樹、戸田真志)
- 13 函館観光情報サイト“はこぶら”ネクストステージ
(担当教員:奥野拓)
- 14 メロディレンダー ーだれでも出来る即興演奏支援システムの実現ー
(担当教員:中田隆行、花田光彦、川口聡)
- 15 クリスタルプロジェクト
(担当教員:齊藤朝輝、ホセ・ナチュル)
- 16 セキュリティ対策の歴史と将来
(担当教員:白勢政明)
- 17 デザインと科学の解剖学
(担当教員:柳英克、沼田寛)
- 18 学習再発見のためのe-learning機能開発
(担当教員:沼田寛、齊藤朝輝)
- 19 室内音響シミュレーションと音響空間の設計
(担当教員:三木信弘、高橋信行)
- 20 画像処理技術やセンサ技術を用いたインタラクティブシステム開発プロジェクト
(担当教員:川嶋稔夫、寺沢憲吾)
- 21 地域農業情報発信支援プロジェクト
(担当教員:三上貞芳、和田雅昭)
- 22 (道南経済活性化の基礎調査)函館エコ推進プロジェクト
(担当教員:鈴木克也、川越敏司、小野瞭)

2011年度(平成23年度)

- 1 進化ゲームの数理とシミュレーション
(担当教員:川越敏司、川口聡)
- 2 いかロボットプロジェクト
(担当教員:松原仁、和田雅昭)
- 3 クラウドスマートフォンプロジェクト
(担当教員:高橋修、新美礼彦、白石陽)
- 4 祝祭空間デザイン
(担当教員:木村健一、迎山和司、伊藤精英)
- 5 地域農業情報発信プラットフォーム構築プロジェクト
(担当教員:奥野拓、鈴木昭二、寺沢秀雄、平田圭二)

- 6 筋電義手の開発
(担当教員:櫻沢繁、戸田真志、中垣俊之)
- 7 小学生のためのエデュテインメントシステム製作プロジェクト
(担当教員:戸田真志、山本敏雄)
- 8 地域に根ざした数理科学教育
(担当教員:上野嘉夫、高村博之)
- 9 使い物になる実践型システム開発2011
(担当教員:大場みち子、伊藤恵)
- 10 はこだて参加型マップシステム mSYNCの構築と運用
(担当教員:美馬のゆり、神谷年洋、田柳恵美子)
- 11 Smart FUN
(担当教員:高橋信行、小西修、新美礼彦)
- 12 暗号解読の可視化
(担当教員:白勢政明)
- 13 SMART FESTIVAL
(担当教員:イアン・フランク、中田隆行)
- 14 モノを動かすソフトウェア
(担当教員:長崎健、佐藤仁樹)
- 15 拡張現実感を用いた新規技術の提案と開発
(担当教員:大澤英一、加藤浩二)
- 16 Space exploration with radio and optical telescopes
(担当教員:ウラジミール・リアボフ、村重淳)
- 17 言語グリッドを用いた多言語函館観光案内サービス
(担当教員:片桐恭弘、奥野拓、大塚裕子、松原仁)
- 18 Tsunami Project
(担当教員:齊藤郁夫、ホセ・ナチュル)
- 19 函庭-hakoniwa-(発見をうながすスーパーリアリティシステム)
(担当教員:川嶋稔夫、角康之、寺沢憲吾)
- 20 科学教材開発ー粘菌ー
(担当教員:中垣俊之、櫻沢繁)
- 21 マインドコミュニケーション
(担当教員:佐藤直行、岡本誠、伊藤精英)
- 22 情報表現技術で支援する医療の世界
(担当教員:美馬義亮、南部美砂子、藤野雄一、姜南圭、岩田州夫、角薫)

2012年度(平成24年度)

- 1 アニメ・ド・エデュケーション
(担当教員:角薫、ドミニク・カスツジャ・バゲンダ、中村美智子、アンドリュウ・ジョンソン)
- 2 進化ゲームの数理とシミュレーション
(担当教員:川越敏司、川口聡)
- 3 スマートフォンとクラウドを活用した未来志向業務支援システム開発
(担当教員:伊藤恵、大場みち子)
- 4 知能機械による施設案内
(担当教員:三上貞芳、鈴木昭二、椿本弥生、高橋信行、竹之内高志)
- 5 人をサポートするシステムの開発
(担当教員:長崎健、和田雅昭、佐藤仁樹)
- 6 小学生のためのエデュテインメントシステム開発プロジェクト
(担当教員:山本敏雄、原田泰)
- 7 マインドコミュニケーション
(担当教員:佐藤直行、岡本誠、伊藤精英、中田隆行)
- 8 地域に根ざした数理科学教育
(担当教員:上野嘉夫、高村博之)
- 9 暗号ハードウェア-乗算器編
(担当教員:白勢政明)
- 10 はこだて広域観光情報の多言語発信プロジェクト
(担当教員:片桐恭弘、大塚裕子)
- 11 医療現場に於ける問題発見と解決
(担当教員:美馬義亮、藤野雄一、南部美砂子、安井重哉)

- 12 科学技術展示における参加共有型システムの開発
(担当教員:美馬のゆり、角康之)
- 13 Fringe Japan Project
(担当教員:イアン・フランク)
- 14 函館観光情報の有効活用のためのWeb APIとアプリの開発
(担当教員:奥野拓、鈴木昭二、椿本弥生)
- 15 第二期いかロボット創造プロジェクト
(担当教員:松原仁、柳英克)
- 16 10年後の函館の公共交通をデザインする
(担当教員:平田圭二、田柳恵美子、竹川佳成)
- 17 函館アバター
(担当教員:迎山和司、大澤英一、角康之)
- 18 画像技術を利用したアプリケーションの設計開発
(担当教員:川嶋稔夫、寺沢憲吾)
- 19 新ポートフォリオシステム
(担当教員:神谷年洋)
- 20 教育・展示用二重振り子の制作
(担当教員:沼田寛、齊藤郁夫)
- 21 ミライケータイプロジェクト
(担当教員:高橋修、姜暁鴻、中村嘉隆、白石陽)
- 22 旅するミュージアム
(担当教員:木村健一、中垣俊之、迎山和司)
- 23 生体情報の福祉利用～筋電義手の開発～
(担当教員:櫻沢繁、中垣俊之)

2013年度(平成25年度)

- 1 未体験レシピの探求～食の新世界をめざして～
(担当教員:佐藤仁樹、新美礼彦)
- 2 複雑系の数理とシミュレーション
(担当教員:川越敏司、川口聡、齊藤朝輝)
- 3 ICTで地域をデザインする～お客様のための使えるシステム構築～
(担当教員:伊藤恵、奥野拓、大場みち子)
- 4 セキュリティを極めよう
(担当教員:白勢政明)
- 5 ICTに基づく医療の場の環境デザイン
(担当教員:藤野雄一、南部美砂子、姜南圭、佐藤生馬)
- 6 ミライケータイプロジェクト～新しいつながりをデザインするモバイルアプリケーションの提案～
(担当教員:高橋修、姜暁鴻、白石陽、中村嘉隆)
- 7 函館の未来を拓くトランスファー
(担当教員:平田圭二、田柳恵美子、竹川佳成、椿本弥生)
- 8 北海道の魅力創造プロジェクト
(担当教員:長崎健、和田雅昭)
- 9 北斗市ご当地キャラクターのデザイン
(担当教員:安井重哉、木村健一)
- 10 地域に根ざした数理科学教育
(担当教員:上野嘉夫、高村博之、田中健一郎)
- 11 移動プラネタリウム VR/AR技術を活かして地域に根ざした手作りプラネタリウムの制作
(担当教員:迎山和司、大澤英一、木村健一、中垣俊之)
- 12 biblive: 情報ライブラリーでの体験の記録・共有支援
(担当教員:角康之、美馬のゆり、原田泰)
- 13 アニメ・デ・エデュケーション
(担当教員:角薫、ドミニク・カスツジャ・バゲンダ、中村美智子)
- 14 道南地域の魅力を伝える情報発信プロジェクト
(担当教員:片桐恭弘、大塚裕子、藤田篤)
- 15 屋内移動支援システム開発プロジェクト
(担当教員:三上貞芳、高橋信行、鈴木昭二)
- 16 函館観光用ロボット制作運営プロジェクト
(担当教員:松原仁、柳英克)
- 17 子どもと学ぶ プログラミング×デザイン
(担当教員:原田泰、岡本誠)
- 18 魅惑的なハイブリッドミュージアムの開発
(担当教員:川嶋稔夫、寺沢憲吾)
- 19 教育・展示用二重振り子の制作
(担当教員:沼田寛、由良文孝)
- 20 Mind Communication
(担当教員:佐藤直行、岡本誠、伊藤精英、中田隆行、花田光彦)
- 21 やわらかさを感じる筋電義手の開発
(担当教員:櫻沢繁、伊藤精英)
- 22 Fringe Japan — Community Activation Through a Community's Events
(担当教員:イアン・フランク)

2014年度(平成26年度)

- 1 未体験レシピの探求～その日のためのレシピ集～
(担当教員:佐藤仁樹、新美礼彦)
- 2 タブレットで創る観光・業務・教育の特効薬(高度ICT)
(担当教員:伊藤恵、奥野拓、原田泰、木塚あゆみ)
- 3 複雑系の数理とシミュレーション
(担当教員:川越敏司、川口聡、齊藤朝輝)
- 4 はこだてをいかロボットで盛り上げよう
(担当教員:松原仁、柳英克)
- 5 函館・空カメラ・海カメラ・山カメラ(空編)～番組制作とツール開発～
(担当教員:安井重哉、原田泰、ダミアン・リヴァーズ)
- 6 屋内移動用パーソナルモビリティの活用
(担当教員:三上貞芳、高橋信行、鈴木昭二)
- 7 スマホ/タブレットから始まる新しい本屋スタイル
(担当教員:大場みち子、岡本誠、木塚あゆみ)
- 8 素因数分解
(担当教員:白勢政明、由良文孝)
- 9 地域に根ざした数理科学教育
(担当教員:上野嘉夫、高村博之、田中健一郎)
- 10 大移動プラネタリウム
(担当教員:迎山和司、大澤英一、木村健一)
- 11 函館湾の海上交通可視化システムの開発
(担当教員:長崎健、和田雅昭)
- 12 ゲーム・デ・エデュケーション
(担当教員:角薫、ドミニク・カスツジャ・バゲンダ)
- 13 函館の未来を拓くトランスファー
(担当教員:平田圭二、田柳恵美子、竹川佳成、椿本弥生)
- 14 eポートフォリオシステムの開発
(担当教員:神谷年洋)
- 15 魅惑的なハイブリッドミュージアムの開発
(担当教員:川嶋稔夫、木村健一、寺沢憲吾)
- 16 ミライケータイプロジェクト
(担当教員:高橋修、姜暁鴻、白石陽、中村嘉隆)
- 17 biblive: 情報ライブラリーでの体験の記録・共有支援
(担当教員:角康之、原田泰、川嶋稔夫)
- 18 データ解析技術による意思決定支援
(担当教員:竹之内高志、片桐恭弘、永野清仁)
- 19 本物の人の手に学ぶ筋電義手の開発
(担当教員:櫻沢繁、伊藤精英、高木清二)
- 20 future body:知覚デザイン
(担当教員:岡本誠、伊藤精英、佐藤直行、櫻沢繁、竹川佳成)
- 21 FabLab函館
(担当教員:塚田浩二、美馬のゆり、迎山和司、木塚あゆみ)
- 22 ICTで医療の現場をデザインしよう
(担当教員:藤野雄一、南部美砂子、姜南圭、佐藤生馬)

06 | 学部データ

6. プロジェクト学習* のテーマ一覧(*正式名称:システム情報科学実習)(2010年度～)

2015年度(平成27年度)

- 1 ミライケータイプロジェクト
(担当教員:白石陽、高橋修、姜曉鴻、中村嘉隆、大場みち子)
- 2 未体験レシピの探求～使えるおもしろレシピ集～
(担当教員:佐藤仁樹、新美礼彦)
- 3 フィールドから創る地域・社会のためのスウィフトなアプリ開発
(担当教員:伊藤恵、奥野拓、原田泰、木塚あゆみ、南部美砂子)
- 4 新しい函館のためのいかロボットの開発と運用
(担当教員:松原仁、鈴木恵二)
- 5 移動プラネタリウム祭: 地域に根ざす手作りプラネタリウムの制作
(担当教員:迎山和司、大澤英一、木村健一)
- 6 モバイル端末やビッグデータで医療・ヘルスケア環境をデザインしよう
(担当教員:藤野雄一、南部美砂子、姜南圭、佐藤生馬、富永敦子)
- 7 ゲーム・デ・エデュケーション
(担当教員:角薫、ドミニク・カスツジャ・バゲンダ)
- 8 感じる筋電義手の開発
(担当教員:櫻沢繁、伊藤精英、高木清二)
- 9 函館発新体験開発プロジェクト(函館発新体験型施設のコンテンツ企画・制作・運営プロジェクト)
(担当教員:柳英克、松原仁)
- 10 未来大生のための数理科学学習環境の整備
(担当教員:美馬義亮、高村博之、香取勇一、大塚裕子)
- 11 ロケーションベースサービスの展開
(担当教員:三上貞芳、高橋信行、鈴木昭二)
- 12 ハコダテソラカメラ・番組制作とツール開発
(担当教員:安井重哉、原田泰、櫻沢繁)
- 13 函館湾のすべての船舶を網羅せよ～不審船をさがせ!～
(担当教員:長崎健、和田雅昭、高博昭)
- 14 FUN-ECMプロジェクト
(担当教員:白勢政明、由良文孝)
- 15 FabLab 函館: 新しいモノづくりを支える活動拠点／コンテンツ／支援システムの創出
(担当教員:塚田浩二、美馬のゆり、角康之)
- 16 複雑系の数理とシミュレーション
(担当教員:齊藤朝輝、川越敏司、川口聡)
- 17 もえもえデジタルサイネージ～人を動かすデザイン×認知×システム～
(担当教員:平田圭二、竹川佳成、田柳恵美子、椿本弥生)
- 18 地方のための twitter ローカライズ
(担当教員:寺沢憲吾、竹之内高志、永野清仁、片桐恭弘)
- 19 シンクロ現象と音楽・映像表現
(担当教員:花田光彦、中田隆行)
- 20 言葉をピンで「そこ」に留める -「まち」ミュージアム-
(担当教員:川嶋稔夫、奥野拓、木村健一)
- 21 future body (知覚デザイン)
(担当教員:岡本誠、佐藤直行、伊藤精英、櫻沢繁、竹川佳成)

2016年度(平成28年度)

- 1 ミライケータイプロジェクト
(担当教員:白石陽、姜曉鴻、大場みち子、稲村浩、新美礼彦、中村嘉隆)
- 2 未来大における数学学習環境のデザイン
(担当教員:美馬義亮、高村博之、香取勇一、富永敦子)
- 3 使ってもらって学ぶフィールド指向システムデザイン
(担当教員:伊藤恵、木塚あゆみ、南部美砂子、奥野拓)
- 4 モバイル端末やビックデータで医療・ヘルスケア環境をデザインしよう
(担当教員:藤野雄一、南部美砂子、佐藤生馬)
- 5 ゲーム・デ・エデュケーション
(担当教員:角薫、マイケル・ヴァランス、ドミニク・カスツジャ・バゲンダ、椿本弥生)
- 6 複雑系の数理とシミュレーション
(担当教員:齊藤朝輝、川越敏司、川口聡)
- 7 異文化・共感・グローバルデザイン
(担当教員:姜南圭、アンドリュー・ジョンソン、アダム・スミス)

- 8 移動プラネタリウム(コンテンツ): 地域に根ざす手作りプラネタリウムの制作
(担当教員:大澤英一、木村健一、迎山和司)
- 9 もえもえデジタルサイネージ2045～人を動かすためのデザイン×認知心理×コミュニケーション
(担当教員:平田圭二、竹川佳成、田柳恵美子、寺井あすか)
- 10 新大型イカロボの作成と地域振興展開
(担当教員:松原仁、鈴木恵二)
- 11 函館山カメラ-文脈展示のためのシステムとコンテンツの開発
(担当教員:安井重哉、木村健一、原田泰)
- 12 future body (知覚デザイン)
(担当教員:岡本誠、安井重哉、伊藤精英、佐藤直行)
- 13 ロケーションベースサービスの展開
- 位置情報と環境認識技術の応用 -
(担当教員:三上貞芳、高橋信行、鈴木昭二)
- 14 AIするディープラーニング
(担当教員:竹之内高志、永野清仁、寺沢憲吾)
- 15 FUN-ECMプロジェクト
(担当教員:白勢政明、由良文孝)
- 16 函館発新体験開発プロジェクト
(担当教員:柳英克、松原仁)
- 17 こころの科学について学ぼう: こころと脳の科学の教材作成
(担当教員:花田光彦、中田隆行)
- 18 バーチャルダイビング
(担当教員:長崎健、和田雅昭、高博昭)
- 19 豊かな体験としてのミュージアムIT ～大地と人とミュージアム～
(担当教員:川嶋稔夫、木村健一、角康之、奥野拓)
- 20 JUNO watch project
(担当教員:ウラジミール・リアボフ、香取勇一)
- 21 身体拡張筋電ロボット～ASHURA～
(担当教員:櫻沢繁、高木清二、伊藤精英)
- 22 FabLab函館
(担当教員:塚田浩二、美馬のゆり、角康之)

2017年度(平成29年度)

- 1 ミライケータイプロジェクト[re:]
(担当教員:白石陽、大場みち子、姜曉鴻、稲村浩、新美礼彦、中村嘉隆)
- 2 使ってもらって学ぶフィールド指向システムデザイン2017
(愛称: すういふとプロジェクト)
(担当教員:伊藤恵、南部美砂子、奥野拓)
- 3 数学学習環境のデザインと実現
(担当教員:美馬義亮、高村博之、富永敦子)
- 4 フラクタル×ジャズ 複雑系の数理とシミュレーション
(担当教員:川嶋稔夫、川口聡、齊藤朝輝)
- 5 函館山カメラ-番組制作と社会への発信
(担当教員:安井重哉、木村健一、原田泰)
- 6 インタラクティブ・ストーリーテリング
(担当教員:角薫、村井源)
- 7 IoTで医療・ヘルスケア環境をデザインしよう
(担当教員:藤野雄一、南部美砂子、佐藤生馬、松原克弥)
- 8 ビーコンIoTで函館のまちをハックする
(担当教員:松原克弥、鈴木恵二、奥野拓、藤野雄一)
- 9 ロケーションベースサービスの展開 - 人々の生活を便利にする位置情報サービスの提供 -
(担当教員:三上貞芳、高橋信行、鈴木昭二)
- 10 共感に基づくグローバルデザイン
(担当教員:姜南圭、アンドリュー・ジョンソン)
- 11 FUN-ECMプロジェクト
(担当教員:白勢政明、由良文孝)
- 12 豊かな文化的体験のためのミュージアムIT ～触発しあうモノとヒト～
(担当教員:鈴木恵二、木村健一、角康之、奥野拓、川嶋稔夫)

- 13 AIするディープラーニング
(担当教員: 竹之内高志、寺沢憲吾、香取勇一)
- 14 大型イカロボの開発・活用デザイン
(担当教員: 松原仁、鈴木恵二)
- 15 函館発新体験開発プロジェクト
(担当教員: 柳英克、松原仁)
- 16 もえもえデジタルサイネージ2017「○○の街・はこだて」←各自で
○○を埋めよ〜街に出て人を動かす、デザイン×認知心理×コ
ミュニケーション〜
(担当教員: 平田圭二、田柳恵美子、竹川佳成、寺井あすか)
- 17 ARプラネタリウム: 可搬型エアドームを用いた拡張現実感プラネ
タリウムの実現
(担当教員: 大澤英一、迎山和司)
- 18 心理学から考えるヒトと機械の調和
(担当教員: 花田光彦、中田隆行、佐藤仁樹)
- 19 マンガ工学
(担当教員: 角康之、寺沢憲吾、迎山和司、椿本弥生)
- 20 ファッションテック
(担当教員: 岡本誠、佐藤直行、伊藤精英、安井重哉)
- 21 アクアビジョン
(担当教員: 長崎健、和田雅昭、高博昭)
- 22 身体拡張筋電インタフェース - ASHURA -
(担当教員: 櫻沢繁、高木清二、伊藤精英、辻義人)
- 23 Fab da Vinci: カガクとアートをハックしよう!
(担当教員: 塚田浩二、美馬のゆり、角康之)

2018年度(平成30年度)

- 1 ミライケータイププロジェクト[re:]
(担当教員: 白石陽、大場みち子、姜曉鴻、稲村浩、新美礼彦、中村嘉隆)
- 2 ディーラーをやっつけろ! 複雑系の数理とシミュレーション
(担当教員: 川越敏司、川口聡、齊藤朝輝)
- 3 数理科学を学ぶ環境のデザイン
(担当教員: 美馬義亮、寺井あすか、田中吉太郎)
- 4 使ってもらって学ぶフィールド指向システムデザイン2018
(愛称: すういふと2018)
(担当教員: 伊藤恵、南部美砂子、奥野拓、原田泰)
- 5 AIするディープラーニング
(担当教員: 竹之内高志、寺沢憲吾、香取勇一、富永敦子)
- 6 人の理解を深める心理学研究
(担当教員: 中田隆行、花田光彦)
- 7 ロボット型ユーザインタラクションの実用化
ー柔らかで、あたたかく、優しいサービスの実現へー
(担当教員: 三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行)
- 8 函館発新体験開発プロジェクト
(担当教員: 柳英克、松原仁)
- 9 豊かな文化的体験のためのミュージアムIT
ー触発しあうモノとヒトー
(担当教員: 鈴木恵二、川嶋稔夫、木村健一、角康之、奥野拓)
- 10 複雑系知能ロボットへの挑戦
(担当教員: 松原仁、鈴木恵二)
- 11 音響プラネタリウム: 地域に根ざす手作りプラネタリウムの制作
(担当教員: 迎山和司、大澤英一)
- 12 ビーコンIoTで函館のまちをハックする - BEACON FUN
Reloaded
(担当教員: 松原克弥、藤野雄一、鈴木恵二、鈴木昭二、奥野拓)
- 13 クリエイティブAI
(担当教員: 村井源、迎山和司、田柳恵美子、平田圭二)
- 14 共感に基づくグローバルデザイン
(担当教員: 姜南圭、アダム・スミス、竹川佳成、アンドリュー・
ジョンソン)
- 15 future body
(担当教員: 岡本誠、佐藤直行、伊藤精英、竹川佳成、安井重哉)

- 16 FUN-ECMプロジェクト
(担当教員: 白勢政明、由良文孝)
- 17 Underwater World
(担当教員: 長崎健、和田雅昭、高博昭)
- 18 IoTとAIで医療・ヘルスケア環境をデザインしよう
(担当教員: 藤野雄一、南部美砂子、佐藤生馬、松原克弥)
- 19 身体拡張筋電インタフェース-ASHURA-
(担当教員: 櫻沢繁、高木清二、辻義人、安井重哉)
- 20 FabLive: 学び、作り、魅せるファブ
(担当教員: 塚田浩二、美馬のゆり、角康之)

2019年度(平成31年度)

- 1 ミライケータイププロジェクト
(担当教員: 白石陽、大場みち子、姜曉鴻、稲村浩、新美礼彦、中村嘉隆)
- 2 心に響く情報の杜
(担当教員: 佐藤仁樹、新美礼彦)
- 3 使ってもらって学ぶフィールド指向システムデザイン2019
(愛称: すういふと2019)
(担当教員: 伊藤恵、南部美砂子、奥野拓、原田泰)
- 4 人間の心と行動の心理学研究
(担当教員: 宮本エジソン正、中田隆行、花田光彦)
- 5 函館発新体験開発プロジェクト
(担当教員: 柳英克、松原仁、美馬のゆり、塚田浩二)
- 6 数理科学学習改革: みんなで振り返ろう
(担当教員: 美馬義亮、寺井あすか、田中吉太郎)
- 7 音響プラネタリウム2: 地域に根ざす手作りプラネタリウムの制作
(担当教員: 迎山和司、大澤英一)
- 8 ロボット型ユーザインタラクションの実用化 ーシンプルで効果的な
ロボット型インタフェースの実現へー
(担当教員: 三上貞芳、高橋信行、鈴木昭二)
- 9 クリエイティブA.I.
(担当教員: 村井源、迎山和司、平田圭二、角薫、田柳恵美子)
- 10 ビーコンIoTで函館のまちをハックする - BEACON FUN
Revolutions
(担当教員: 松原克弥、藤野雄一、鈴木恵二、鈴木昭二、奥野拓)
- 11 異文化との共感に基づくグローバルデザイン
(担当教員: 姜南圭、アンドリュー・ジョンソン、アダム・スミス、竹川佳成)
- 12 Underwater World ver.2
(担当教員: 長崎健、和田雅昭、高博昭)
- 13 (新) ゲーム・デ・エデュケーション
(担当教員: 角薫、ドミニク・カスツジャ・バゲンダ、アダム・スミス)
- 14 デザイン・キャラバン
(担当教員: 原田泰、角康之)
- 15 AIするディープラーニング
(担当教員: 竹之内高志、寺沢憲吾、香取勇一、富永敦子、佐々木博昭)
- 16 FUN-ECMプロジェクト
(担当教員: 白勢政明、由良文孝)
- 17 IoTとAIで医療・ヘルスケア環境をデザインしよう
(担当教員: 藤野雄一、佐藤生馬、松原克弥)
- 18 JUNO AI project
(担当教員: ウラジミール・リアボフ、香取勇一)
- 19 豊かな文化的体験のためのミュージアムIT ー触発しあうモノとヒトー
(担当教員: 鈴木恵二、川嶋稔夫、木村健一、角康之、奥野拓)
- 20 複雑系知能ロボットへの挑戦
(担当教員: 松原仁、鈴木恵二)
- 21 future body
(担当教員: 岡本誠、伊藤精英、佐藤直行、安井重哉、竹川佳成)
- 22 コミュニケーション脳科学
(担当教員: 佐藤直行、富永敦子)
- 23 生体信号による身体拡張インタフェース〜ASHURA〜
(担当教員: 櫻沢繁、高木清二、安井重哉、辻義人)

07 | 大学院データ

1. 入学志願者数・受験者数・合格者数・入学者数の推移（2011年度～）

① 博士(前期)課程

年度		入 試		定 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
2011年度 (平成23年度)	一般選抜	社会人以外	学内	50	55	55	41	36
		社会人	学外		1	1	1	1
	特別選抜		学内	8	8	8	8	
			学外					
		在学期間短縮						
		計			64	64	50	45
2011年度 (平成23年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内	若干名				
		社会人	学外		1	1	1	1
	特別選抜		学内					
			学外					
		計			1	1	1	1
2012年度 (平成24年度)	一般選抜	社会人以外	学内	50	48	47	36	34
		社会人	学外		1	1	1	1
	特別選抜		学内	4	4	4	4	
			学外					
		在学期間短縮						
		計			54	53	41	39
2012年度 (平成24年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内	若干名				
		社会人	学外					
	特別選抜		学内					
			学外					
		計						
2013年度 (平成25年度)	一般選抜	社会人以外	学内	50	46	44	35	31
		社会人	学外					
	特別選抜		学内	3	3	3	3	
			学外					
		在学期間短縮						
		計			49	47	38	34
2013年度 (平成25年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内	若干名				
		社会人	学外					
	特別選抜		学内					
			学外					
		計						
2014年度 (平成26年度)	一般選抜	社会人以外	学内	50	61	61	38	37
		社会人	学外					
	特別選抜		学内					
			学外					
		在学期間短縮						
		計			61	61	38	37
2014年度 (平成26年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内	若干名	1	1	1	1
		社会人	学外					
	特別選抜		学内					
			学外					
		計			2	2	1	1
2015年度 (平成27年度)	一般選抜	社会人以外	学内	50	39	39	26	25
		社会人	学外					
	特別選抜		学内	5	5	5	5	
			学外	1	1	1		
		在学期間短縮						
		計			45	45	32	30
2015年度 (平成27年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内	若干名	1	1	1	
		社会人	学外					
	特別選抜		学内		2	2	2	2
			学外					
		計			3	3	3	2

年度	入 試			定 員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
2016年度 (平成28年度)	一般選抜	社会人以外	学内 学外	50	57	57	51	50
		社会人						
	特別選抜		学内 学外		1	1	1	1
	在学期間短縮							
		計		58	58	52	51	
2016年度 (平成28年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内 学外	若干名	1	1	1	1
		社会人						
	特別選抜		学内 学外		1			
			計		2	1	1	1
2017年度 (平成29年度)	一般選抜	社会人以外	学内 学外	50	71	71	59	54
		社会人			1	1		
	特別選抜		学内 学外		2	2	2	2
	在学期間短縮							
		計		74	74	61	56	
2017年度 (平成29年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内 学外	若干名	2	2	2	2
		社会人						
	特別選抜		学内 学外					
			計		2	2	2	2
2018年度 (平成30年度)	一般選抜	社会人以外	学内 学外	50	58	58	47	44
		社会人						
	特別選抜		学内 学外		4	4	4	3
					1	1	1	1
在学期間短縮								
		計		63	63	52	48	
2018年度 (平成30年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内 学外	若干名	3	2	2	2
		社会人						
	特別選抜		学内 学外					
			計		3	2	2	2
2019年度 (平成31年度)	一般選抜	社会人以外	学内 学外	50	62	61	41	41
		社会人						
	特別選抜		学内 学外		6	6	6	6
	在学期間短縮							
		計		68	67	47	47	
2019年度 (令和1年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内 学外	若干名	5	5	3	3
		社会人						
	特別選抜		学内 学外		2	2	2	2
			計		7	7	5	5
2020年度 (令和2年度)	一般選抜	社会人以外	学内 学外	50	60	60	56	51
		社会人						
	特別選抜		学内 学外		3	3	3	3
					1	1	1	1
在学期間短縮								
		計		64	64	60	55	
2020年度 (令和2年度) 後期入学	一般選抜	社会人以外	学内 学外	若干名				
		社会人						
	特別選抜		学内 学外					
			計					

② 博士(後期)課程

年度	入試	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
2011年度 (平成23年度)	選考 社会人以外	10	5	5	5	5
	社会人		3	3	3	3
	計		8	8	8	8
2011年度 (平成23年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名				
	社会人		2	2	2	2
	計		2	2	2	2
2012年度 (平成24年度)	選考 社会人以外	10				
	社会人		1	1	1	1
	計		1	1	1	1
2012年度 (平成24年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名				
	社会人		3	3	3	3
	計		3	3	3	3
2013年度 (平成25年度)	選考 社会人以外	10				
	社会人		2	2	2	2
	計		2	2	2	2
2013年度 (平成25年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名	1	1	1	1
	社会人		1	1	1	1
	計		2	2	2	2
2014年度 (平成26年度)	選考 社会人以外	10	3	3	3	3
	社会人					
	計		3	3	3	3
2014年度 (平成26年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名				
	社会人		3	3	3	3
	計		3	3	3	3
2015年度 (平成27年度)	選考 社会人以外	10	2	2	2	2
	社会人		2	2	2	2
	計		4	4	4	4
2015年度 (平成27年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名	2	2	2	2
	社会人		1	1	1	1
	計		3	3	3	3
2016年度 (平成28年度)	選考 社会人以外	10	3	3	3	2
	社会人		1	1	1	1
	計		4	4	4	3
2016年度 (平成28年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名				
	社会人		2	2	2	2
	計		2	2	2	2
2017年度 (平成29年度)	選考 社会人以外	10	1	1	1	
	社会人		2	2	2	2
	計		3	3	3	2
2017年度 (平成29年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名	2	2	2	2
	社会人		2	2	2	2
	計		4	4	4	4
2018年度 (平成30年度)	選考 社会人以外	10	3	3	3	3
	社会人		3	3	3	3
	計		6	6	6	6
2018年度 (平成30年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名	4	4	4	4
	社会人		3	3	3	3
	計		7	7	7	7

年度	入試	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
2019年度 (平成31年度)	選考 社会人以外	10	2	2	2	2
	社会人		7	7	7	7
	計		9	9	9	9
2019年度 (令和1年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名	1	1	1	1
	社会人		1	1	1	1
	計		2	2	2	2
2020年度 (令和2年度)	選考 社会人以外	10	2	2	2	2
	社会人		1	1	1	1
	計		3	3	3	3
2020年度 (令和2年度) 後期入学	選考 社会人以外	若干名	2	2	2	2
	社会人					
	計		2	2	2	2

07 | 大学院データ

2. 博士(前期)課程修了生の進路状況 (2010年度～)

年度	修了者数 (3月卒業)	民間企業就職者			大学院進学者		その他	
		希望者数(割合)	就職者数	就職率	人数	割合	人数	割合
2010年度(7期生)	49	48 (98.0%)	46	95.8%	1	2.0%		
2011年度(8期生)	43	43(100.0%)	41	95.3%				
2012年度(9期生)	43	41 (95.3%)	39	95.1%			2	4.7%
2013年度(10期生)	37	33 (89.2%)	33	100.0%	3	8.1%	1	2.7%
2014年度(11期生)	31	29 (93.5%)	29	100.0%	2	6.5%		
2015年度(12期生)	35	34 (97.1%)	34	100.0%			1	2.9%
2016年度(13期生)	25	25(100.0%)	25	100.0%				
2017年度(14期生)	54	51 (94.4%)	51	100.0%	2	3.7%	1	1.9%
2018年度(15期生)	50	46 (92.0%)	46	100.0%	1	2.0%	3	6.0%
2019年度(16期生)	47	43 (91.5%)	41	95.3%	2	4.3%	2	4.3%
合 計	414	393 (94.9%)	385	98.0%	11	2.7%	10	2.4%

※1 割合は各々修了者数に対する割合 ※2 大学院以外の進学者(専門学校・研究生等)および公務員希望者はその他に含む

① 民間企業就職者の状況／本社所在地別内訳(2010年度～)

年度	総数	函館	札幌	その他道内	東北	首都圏	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	その他
2010年度 (7期生)	46	2 4.3%	4 8.7%	1 2.2%		35 76.1%			4 8.7%				
2011年度 (8期生)	41	1 2.4%	6 14.6%			27 65.9%	1 2.4%		6 14.6%				
2012年度 (9期生)	39	1 2.6%	5 12.8%	1 2.6%		32 82.1%							
2013年度 (10期生)	33	3 9.1%	2 6.1%	1 3.0%	1 3.0%	23 69.7%	1 3.0%		1 3.0%				1 3.0%
2014年度 (11期生)	29		1 3.4%			25 86.2%	2 6.9%	1 3.4%					
2015年度 (12期生)	34	1 2.9%	3 8.8%			26 76.5%	1 2.9%		3 8.8%				
2016年度 (13期生)	25		1 4.0%			24 96.0%							
2017年度 (14期生)	51	2 3.9%	5 9.8%			40 78.4%			2 3.9%				2 3.9%
2018年度 (15期生)	46	1 2.2%	4 8.7%			40 87.0%			1 2.2%				
2019年度 (16期生)	41		2 4.9%	1 2.4%		34 82.9%	1 2.4%		2 4.9%				1 2.4%
合計	385	11 2.9%	33 8.6%	4 1.0%	1 0.3%	306 79.5%	6 1.6%	1 0.3%	19 4.9%				4 1.0%

② 民間企業就職者の状況／業種別内訳(2010年度～)

年度	総数	情報サービス業	製造業	流通・通信 小売・卸売	出版・印刷	マスコミ 放送・広告	金融・証券	その他 サービス業	その他
2010年度 (7期生)	43	34 79.1%	5 11.6%	3 7.0%				1 2.3%	
2011年度 (8期生)	41	28 68.3%	8 19.5%	4 9.8%					1 2.4%
2012年度 (9期生)	39	31 79.5%	5 12.8%	3 7.7%					
2013年度 (10期生)	33	27 81.8%	3 9.1%	3 9.1%					
2014年度 (11期生)	29	16 55.2%	7 24.1%	3 10.3%		2 6.9%		1 3.4%	
2015年度 (12期生)	34	20 58.8%	9 26.5%	2 5.9%		1 2.9%			2 5.9%
2016年度 (13期生)	25	21 84.0%	4 16.0%						
2017年度 (14期生)	51	39 76.5%	5 9.8%	1 2.0%	3 5.9%				3 5.9%
2018年度 (15期生)	46	27 58.7%	8 17.4%	9 19.6%	1 2.2%			1 2.2%	
2019年度 (16期生)	41	28 68.3%	6 14.6%		-	-	-	5 12.2%	2 4.9%
合計	382	271 70.9%	60 15.7%	28 7.3%	4 1.0%	3 0.8%		8 2.1%	8 2.1%

※16期より以下のとおり経産省「業務分類」に合わせ、区分の見直しを行った。「情報サービス業」を「情報通信業」として区分、「マスコミ・放送」を含む「流通・通信・小売・卸売」を「卸売・小売業」として区分。「広告」は「その他サービス業」に含む(Web広告業については情報通信業に区分)。

③ 博士(前期)課程修了生の主な民間企業就職先一覧(2010年度～)

ARISE analytics、インターネットイニシアティブ、SCSK、NTT アドバンステクノロジー、NTT 研究所、NTTコミュニケーションズ、NTTテクノクロス、NTTデータ、NTTドコモ、TIS、KDDI、サイバーエージェント、総合警備保障、ソフトバンク、大日本印刷、東芝、凸版印刷、日本電信電話 (NTT)、日本マイクロソフト、ハイマックス、パナソニック ITS、日立システムズ、日立製作所、富士通、ヤフー、LIFULL、ラック、レコチョク

④ 大学院への進学状況

公立はこだて未来大学、北海道大学、南カリフォルニア大学 (各大学院)

3. 博士(後期)課程修了者数 (2010年度～)

年度	修了数	年度	修了数
2010 (平成22)	3	2016 (平成28)	5
2011 (平成23)		2017 (平成29)	2
2012 (平成24)	4	2018 (平成30)	4
2013 (平成25)	5	2019 (令和元)	5
2014 (平成26)	1	合計	31
2015 (平成27)	2		

08 | 学術交流協定等

1. 学術交流協定等

年 度	締 結 日	提 携 団 体 お よ び 締 結 内 容
2003年度(平成15年度)	4月17日	日本科学未来館と学術交流協定を締結
2004年度(平成16年度)	10月1日	チューリッヒ・アート・デザイン大学(現チューリッヒ芸術大学、スイス)と交換留学協定を締結
2005年度(平成17年度)	6月30日	ダルハウジー大学(カナダ)と学術交流協定を締結
2006年度(平成18年度)	6月2日 9月14日	電気通信大学と学術交流協定を締結 ユトレヒト大学(オランダ)と学術交流協定を締結
2007年度(平成19年度)	5月29日 11月8日 12月11日 2月19日	北陸先端科学技術大学院大学と学術交流協定を締結 国立雲林科技大学(台湾)と学術交流協定を締結 国立交通大学(台湾)と学術交流協定を締結 国立高雄大学(台湾)と学術交流協定を締結
2008年度(平成20年度)	5月19日 8月1日 9月12日 3月26日	東西大学(韓国)と学術交流協定を締結 スラバヤ工科大学(インドネシア)と学術交流協定を締結 札幌医科大学と連携協定を締結 グルノーブル理工科大学(フランス)と学術交流協定を締結
2009年度(平成21年度)	11月12日 1月27日 2月5日	国立高雄大学(台湾)と交換留学協定を締結 北海道大学大学院情報科学研究科と特別研究学生交流協定を提携 壇国大学(韓国)と学術交流協定を締結
2010年度(平成22年度)	4月23日 11月1日	函館工業高等専門学校、苫小牧工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校 及び 旭川工業高等専門学校と学術交流協定を締結 西安電子科技大学(中国)と共同研究室を提携
2011年度(平成23年度)	8月2日	室蘭工業大学と学術交流協定を締結
2012年度(平成24年度)	4月27日 1月21日 2月26日	朝陽科技大学(台湾)と交流協定を締結 ※一度協定期間切れで2019年度に再度締結 国立清華大学電子工学・コンピュータ学科(台湾)と連携協定を締結 パリ・エスト・マルヌ・ラ・ヴァレ大学(現:ギュスターヴエッフェル大学)(フランス)と協力協定を締結
2013年度(平成25年度)	10月31日 3月5日	情報セキュリティ大学院大学と学術交流協定を締結 デ・ラ・サール大学(フィリピン)と学術交流協定を締結
2014年度(平成26年度)	5月28日 11月9日 2月9日 3月3日	清華大学情報科学技術部(中国)と学術連携協定を締結 青森公立大学と学術交流協定を締結 ナンヤン・ポリテクニク デザイン学部(シンガポール)と学術交流・連携を締結 上海交通大学電子工学科(中国)と学術連携協定を締結
2015年度(平成27年度)	10月22日 11月26日	名桜大学と学術交流協定を締結 国立東華大学(台湾)と学術連携協定を締結
2016年度(平成28年度)	6月20日 7月15日 7月29日 8月17日	国立台北科技大学(台湾)と学術交流協定を締結 フィリピン大学セブ校(フィリピン)と学術交流協定を締結 中京大学と学術交流協定を締結 静宣大学(台湾)と交流協定を締結
2017年度(平成29年度)	4月4日 8月28日 9月1日	コペンハーゲンIT大学(デンマーク)と学術交流協定を締結 国立台湾海洋大学(台湾)と学術交流協定を締結 東京電機大学と連携協力協定を締結
2018年度(平成30年度)	7月3日 11月7日 2月12日 3月20日	札幌市立大学と学術交流協定を締結 ブリティッシュコロンビア大学応用科学部(カナダ)と提携声明を締結 サセックス大学工学・情報科学部(イギリス)と学術交流・提携協定を締結 北京理工大学芸術デザイン学部(中国)と学術交流・提携協定を締結
2019年度(平成31年度)	4月25日 5月27日 8月19日 12月3日	タンマサート大学シリントーン国際工学部(タイ)と学術交流協定を締結 朝陽科技大学(台湾)と交流協定を締結 マケレレ大学健康科学カレッジ(ウガンダ)と学術交流提携を締結 コロラド大学ATLAS研究所(アメリカ)と学術交流協定を締結

2. 学術交流協定校との学生の派遣・受入の状況

年 度	学 生 の 派 遣	学 生 の 受 入
2002年度 (平成15年度)		チューリッヒ・アート・デザイン大学 学部生1名(2002.7~10)
2003年度 (平成16年度)		チューリッヒ・アート・デザイン大学 学部生1名(2004.3~6)
2004年度 (平成17年度)	チューリッヒ・アート・デザイン大学 学部生1名(2005.3~8)	
2006年度 (平成18年度)		チューリッヒ・アート・デザイン大学 学部生1名(2006.4~9) ユトレヒト大学 大学院生2名(2006.10~2007.3)
2007年度 (平成19年度)	電気通信大学 大学院生1名(2007.4~6) ダルハウジー大学 大学院生1名(2007.12~2008.7)	チューリッヒ・アート・デザイン大学 学部生1名(2007.4~7)

年 度	学 生 の 派 遣	学 生 の 受 入
2008年度 (平成20年度)	ダルハウジー大学 大学院生1名(2009.2~5) ダルハウジー大学 大学院生1名(2009.2~12)	国立交通大学 大学院生1名(2008.7~9)
2009年度 (平成21年度)	グルノーブル理工科大学 大学院生1名(2009.9~11) チューリッヒ芸術大学 大学院生1名(2010.2~7) チューリッヒ芸術大学 学部生1名(2010.2~2011.1)	
2010年度 (平成22年度)		チューリッヒ・アート・デザイン大学 学部生1名(2010.4~7) 国立高雄大学 学部生1名(2010.4~9) 国立高雄大学 学部生1名(2010.9~2011.3) 西安電子科技大学 大学院生1名(2010.12~2011.3)
2011年度 (平成23年度)		東西大学 大学院生1名(2011.7~2012.3)
2012年度 (平成24年度)	国立交通大学大学院 大学院生1名(2013.2~6) 国立交通大学 学部生1名(2013.2~6)	西安電子科技大学 大学院生2名(2012.9~2013.3)
2013年度 (平成25年度)		壇国大学 学部生1名(2013.4~2014.3) 西安電子科技大学 大学院生1名(2013.4~2014.3) 西安電子科技大学 大学院生1名(2013.11~2014.12) パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学 大学院生1名(2013.9~2014.2)
2014年度 (平成26年度)		パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学 大学院生3名(2014.9~2015.2)
2015年度 (平成27年度)		上海交通大学 大学院生1名(2015.6~2015.9) パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学 大学院生3名(2015.9~2016.2)
2016年度 (平成28年度)	デ・ラ・サール大学 学部生1名(2016.5~8)	西安電子科技大学 大学院生2名(2016.7~2017.8) パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学 大学院生3名(2016.9~2017.3) 国立高雄大学 学部生1名(2016.9~2017.9) 国立台北科技大学 大学院生1名(2016.7~9)
2017年度 (平成29年度)		デ・ラ・サール大学 大学院生1名(2017.4~2020.5) デ・ラ・サール大学 大学院生1名(2017.9~2020.9) 西安電子科技大学 大学院生2名(2017.9~2020.9)
2018年度 (平成30年度)	デ・ラ・サール大学 学部生1名(2018.5~8) パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学 学部生1名(2018.9~2019.1) ブリティッシュコロンビア大学 大学院生1名(2018.8~2019.7)	国立台北科技大学 学部生2名(2018.4~2019.3) パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学 大学院生1名(2018.6~2019.11) 国立交通大学 学部生1名(2018.9~2019.8) パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学 大学院生1名(2018.9~2019.2) 静宜大学 学部生1名(2018.10~2019.9)
2019年度 (平成31年度)	コペンハーゲンIT大学 大学院生1名(2019.9~2020.3) パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学(2020.1よりギュスターヴエッフェル大学) 大学院生2名(2019.9~2020.2) デ・ラ・サール大学 学部生2名(2019.9~12) サセックス大学 大学院生2名(2019.8~9) コペンハーゲンIT大学 大学院生3名(2020.1~2020.5) ブリティッシュコロンビア大学 大学院生1名(2020.1~2020.7) ブリティッシュコロンビア大学 大学院生1名(2020.2~2020.8)	コペンハーゲンIT大学 大学院生2名(2018.10~2019.3) 西安電子科技大学 大学院生2名(2019.1~2020.2) ナンヤン・ポリテクニクデザイン学部 学部生2名(2019.4~6) 西安電子科技大学 大学院生1名(2019.5~2020.2) パリ・エスト・マルヌ・ヴァレ大学(2020.1よりギュスターヴエッフェル大学) 大学院生2名(2019.10~2020.3) コペンハーゲンIT大学 大学院生2名(2019.10~2020.3)

09 | 研究資金獲得実績 (2010年度~)

年 度	共同研究 件数 金額		受託研究 件数 金額		研究費助成 件数 金額		科学研究費補助金 件数 金額		奨学寄附金 件数 金額		受託事業等 件数 金額		合計 件数 金額	
2010年度(平成22年度)	8	8,867	16	103,481			19	51,213	10	16,421	4	22,478	57	202,460
2011年度(平成23年度)	12	22,996	12	119,956	1	1,000	34	85,172	8	6,093	1	500	68	235,717
2012年度(平成24年度)	14	14,897	13	87,215			33	80,497	4	2,700	2	27,600	66	212,909
2013年度(平成25年度)	14	16,529	12	119,511			37	94,961	10	6,620	1	24,025	74	261,646
2014年度(平成26年度)	12	17,326	11	63,461	2	3,700	32	70,283	10	5,098	1	23,250	68	183,118
2015年度(平成27年度)	23	31,001	14	69,923	1	400	34	65,893	10	5,561	1	18,080	83	190,858
2016年度(平成28年度)	21	34,874	14	52,733	1	1,943	36	66,976	6	10,558	4	24,308	82	191,392
2017年度(平成29年度)	15	22,163	17	93,018	2	3,920	31	54,567	8	28,221	2	18,650	75	220,539
2018年度(平成30年度)	10	11,020	16	97,288	3	4,411	29	69,058	5	3,055	3	16,768	66	201,600
2019年度(平成31年度)	17	36,740	15	113,681	4	21,357	32	59,752	11	7,311	4	15,874	83	254,715
総合計	146	216,413	140	920,267	14	36,731	317	698,372	82	91,638	23	191,533	722	2,154,954

10 | 特別講演会開催実績 (2010年度～)

年 度	開 催 日	講 演 テ ー マ	講 師	参加者数
2010年度 (平成22年度)	8月2日	情報アクセシビリティ	岡本明客員教授	100
	8月9日	日本の未来-21世紀を生き延びるために-	内田樹(神戸女学院大学教授)	150
	11月22日	科学はもっとおもしろい! -イグ・ノーベル賞が私たちに教えてくれること-	中垣俊之教授	150
2011年度 (平成23年度)	7月25日	情報認知科学と“医療解放”	杉本真樹(神戸大学大学院医学研究科特命講師)	50
	11月24日	電子出版の現状、読者の変容、図書館の役割	植村八潮(東京電機大学出版局局長)	50
2012年度 (平成24年度)	5月31日	超高齢社会における問題解決としてのスマート化 -高齢者の特徴とスマートシティ-	秋山昌範(東京大学政策ビジョン研究センター長)	56
	6月21日	自己言及的鼎談:文学と科学のはざままで	円城塔(作家)	160
	10月5日	これからの100年をデザインする	奥山清行(工業デザイナー、KEN OKUYAMA DESIGN代表)	150
	11月27日	Think Global Act Local	伊藤博之(クリプトン・フューチャー・メディア株代表取締役)	210
2013年度 (平成25年度)	6月20日	ここまできたコンピュータ将棋	金子知適(東京大学大学院総合文化研究科准教授)	128
			松原仁教授	
	8月18日	未来を見つめた函館の日本酒	小泉武夫(東京農業大学名誉教授)	150
	11月15日	アイデア大爆発	増井俊之客員教授(慶応義塾大学環境情報学部教授)	128
	11月28日	楽しく役にたつビジョンとロボットの研究	金出武雄(米国カーネギーメロン大学教授)	147
	1月10日	やっぱり1番でしょ～スパコンが予言する未来 の情報世界	平木敬(東京大学大学院情報理工学系研究科教授)	50
2014年度 (平成26年度)	11月20日	想いを伝え人を繋げる「文章術」デジタルメ ディア、コミュニティメディア時代の伝える力	坪田知己(京都工芸繊維大学特任教授)	90
	12月1日	心の点火術	吉村司(株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアマネージャー・チーフプロデューサー)	60
	12月16日	ロボットと未来社会 コピーロボット登場!? 自分そっくりジェミノイドと描く未来とは?	石黒浩(大阪大学基礎工学研究科教授(特別教授))	120
2015年度 (平成27年度)	7月2日	素数ゼミの謎 問:素数「13」と「17」をめぐる生 命の神秘を解明せよ	吉村仁(静岡大学工学部教授)	102
	2月1日	「食」の未来×人工知能×デザイン 北海道から 〈酪農・畜産〉をITで変革する	小林晋也(株式会社ファームノート代表取締役)	75
2016年度 (平成28年度)	5月13日	ゲームのつくる新価値とは	松原健二((株)セガゲームス 取締役 コンシューマ オン ラインカンパニーCOO&CTO)	180
	6月16日	未来の日常をつくるデザイン	松井龍哉(フラワー・ロボティクス(株)代表取締役)	75
	12月20日	イノベーションの真実	まつもとゆきひろ((一財)Rubyアソシエーション理事長)	150
2017年度 (平成29年度)	10月5日	デザインと人間の未来	久保田晃弘(多摩美術大学教授)	80
	1月16日	会社説明会「ナンセンス発想とものづくり」	明和電機	180
2018年度 (平成30年度)	7月2日	2030年の人工知能 トップ研究者が語る可 能性と限界	松尾豊(東京大学大学院工学系研究科特任准教授)	200
			中島秀之名誉学長(札幌市立大学学長)	
			松原仁教授	
	10月1日	機械は人間を超えるか?～意識・倫理・創造性	下條信輔(カリフォルニア工科大学生物学部/計算神経系教授)	150
2019年度 (平成31年度)			松原仁教授	
	7月11日	人工知能とは何かを改めて考える	松尾豊(東京大学大学院工学系研究科特任准教授)	200
			中島秀之名誉学長(札幌市立大学学長)	
			松原仁教授	
	10月25日	コミック工学:マンガを創る人工知能	山田胡瓜(漫画家)	120
			松原仁教授	
	11月22日	アートの触発と創造	岡田猛(東京大学大学院教育学研究科教授)	70
			中小路久美代教授	

11 | 公開講座開催実績 (2010年度～)

年 度	開 催 日	講 演 テー マ	講 師	参加者数
2011年度 (平成23年度)	3月23日	函館の観光をデザインする	阪口あき子(株)シンプルウェイ 社長)、安立真由美 (はこぶら編集長)、松原仁教授、奥野拓准教授	40
2012年度 (平成24年度)	10月30日	「J a z z ー逸脱と進化の音楽情報史」(音楽の 情報学第1回)	田柳恵美子特任教授、平田圭二教授 ホウコン・ストーム(ノル웨이国立音楽アカデミー講師)	75
	1月26日	「マジカルサウンドお絵かき」(音楽の情報学第2回)	竹川佳成助教	45
2013年度 (平成25年度)	7月1日	イグ・ノーベル祭り	中垣俊之教授、塚田浩二准教授	200
	1月26日	リケジョ的生き方のススメ	美馬のゆり教授	55
	2月8日	プラネタリウムつくっちゃいました	迎山和司准教授、 村井茂(NPO法人はこだてプラネタリウムの会理事長)	40
2014年度 (平成26年度)	10月4日	試して分かるデザイン入門	安井重哉准教授	20
	10月18日	リズムでわかる脳の仕組み	佐藤直行教授	21
	10月25日	日本酒の味わいことばを探る	大塚裕子准教授	30
2015年度 (平成27年度)	10月3日	身近な暗号とその今昔	白勢政明准教授	18
	10月17日	親子で学ぶ「伝える+伝わる」ワークショップ	富永敦子准教授	12
	10月24日	単細胞生物に知能はあるか?	高木清二准教授	20
2016年度 (平成28年度)	10月1日	快適な道案内を目指して 都市センシングって なんだろう?	白石陽教授	11
	10月8日	ネットワークと最適化の数学 カーナビから機械 学習まで	永野清仁准教授	14
	10月22日	IT技術が創る未来の水産業	高博昭助教	11
2017年度 (平成29年度)	10月7日	ビブリオバトル 人を通して本を知る、本を通し て人を知る	角康之教授	13
	10月14日	社会のルールをデザインしよう ゲーム理論 への招待	川越敏司教授	9
	10月21日	手描きの図解表現を使いこなそう グラフィック レコーディングから資料のポンチ絵まで	原田泰教授	16
2018年度 (平成30年度)	10月6日	使いやすさの認知心理学	南部美砂子准教授	24
	10月13日	文字認識から自動運転まで—画像認識入門	寺沢憲吾准教授	20
	10月21日	ミライノガッコウ	竹川佳成准教授	15
2019年度 (平成31年度)	10月5日	誰でもピカソ:鉛筆で簡単ドローイング!	柳英克教授	20
	10月19日	IoTことはじめ	松原克弥准教授	15
	10月26日	ひらめきの認知科学	寺井あすか准教授	20

12 | 学会・研究会等 (2010年度～)

学会・研究会等開催実績

年 度	開 催 日	学 会 ・ 研 究 会 の 名 称	担 当 教 員 等	参 加 者 数
2010年度 (平成22年度)	5月25日	龍野正実氏(University of Lethbridge, Canada)のセミナー	斉藤朝輝准教授	10
	5月27日	情報処理学会 ユビキタスコンピューティングシステム研究会第26回研究発表会(～28日)	戸田真志准教授	65
	5月29日	日本音楽知覚認知学会平成22年度春季研究発表会(～30日)	中田隆行准教授	70
	6月5日	道数協孝行サークル6月例会(～6日)	高村博之准教授	20
	7月8日	電子情報通信学会 ICM研究会(～9日)	三木信弘教授	20
	7月20日	北海道障害学研究会	川越敏司准教授	30
	8月2日	ベルーガ会議	和田雅昭准教授	14
	8月9日	「pingpong:実験とデザインの間」研究会(～10日)	斉藤朝輝准教授	10
	8月9日	情報処理学会 組込みシステム研究会第18回研究発表会(～10日)	伊藤恵講師	50
	9月29日	函館マリンバイオクラスター研究グループミーティング	鈴木昭二准教授	8
	10月14日	はこだて観光情報学研究会	松原仁教授	11
	10月15日	社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会主催講演会	寺沢秀雄教授	10
	11月9日	チューリングテストを再び考える	松原仁教授	60
	11月27日	日本感性工学会 第3回生命ソフトウェア部会研究会	伊藤精英准教授	50
	11月29日	障害学研究会	川越敏司准教授	30
	12月10日	北海道メカトロニクス研究会懇話会	鈴木昭二准教授	10
	12月11日	観光情報学会 第2回研究発表会	松原仁教授	40
	3月15日	Hakodate Winter School on Natural Computing(～16日)	中垣俊之教授	50
2011年度 (平成23年度)	6月15日	水産・海洋コーディネーター養成講座	和田雅昭准教授	15
	7月6日	北海道大学大学院水産科学研究院「新水産・海洋都市はこだてを支える人材育成」プログラム	和田雅昭准教授	14
	7月21日	情報処理学会 デジタルドキュメント研究会・電子情報通信学会 ライフインテリジェンスとオフィス情報システム研究会	大場みち子教授	50
	8月2日	ベルーガ会議	和田雅昭准教授	18
	8月2日	実験経済学サマーワークショップ	川越敏司准教授	50
	8月30日	共同研究プロジェクト「テキストの多様性を捉える分類指標の策定」研究発表会	大塚裕子准教授	5
	9月3日	精密工学会北海道支部学術講演会	奥野拓准教授	100
	9月4日	シンポジウム「e-サイエンスに向けた革新的アルゴリズム基盤」	小西修教授	50
	9月5日	パターン認識・メディア理解研究会	川嶋稔夫教授	150
	9月20日	日本バーチャルリアリティ学会(～9/22)	松原仁教授	406
	10月19日	水産・海洋コーディネーター養成事業(講義)	三上貞芳教授	20
	11月14日	はこだて観光情報学研究会	松原仁教授	21
	1月26日	ニューロコンピューティング(NC)研究会	佐藤直行准教授	100
	1月27日	函館偏微分方程式研究会	高村博之准教授	20
	3月7日	動的画像処理実利用化ワークショップ(DIA2012)	戸田真志准教授	250
	3月13日	第1回未来大学メディカルICT研究会	藤野雄一教授	25
2012年度 (平成24年度)	7月7日	日本生態心理学会第4回大会(JSEP IV)(～8日)	伊藤精英准教授	70
	7月8日	CHI勉強会2012	角康之教授	50
	7月14日	科研費基盤研究B「ピアチュータリングを取り入れた高等教育における統合型学習支援システムの開発」LCプロジェクト キックオフミーティング(～15日)	美馬のゆり教授	9
	7月25日	学術振興会研究会	中島秀之学長	12
	7月27日	電子情報通信学会 知能ソフトウェア工学・ソフトウェアサイエンス研究会合同研究会(～28日)	伊藤恵講師	60
	8月2日	ベルーガ会議	和田雅昭教授	18
	8月27日	ウェアラブルコンピュータ研究交流会	角康之教授	30
	10月11日	経済産業省平成24年度戦略的基盤技術高度化支援事業「形式手法を活用した組込みセキュリティ技術の確立と安全・安心なCPS社会を支える無線通信ミドルウェアの開発」技術検討委員会(～11月12日)	高橋修教授	21

年 度	開 催 日	学 会 ・ 研 究 会 の 名 称	担 当 教 員 等	参 加 者 数
2012年度 (平成24年度)	10月27日	電子情報通信学会 研究会「感情・評価・態度」(～28日)	大塚裕子准教授	50
	12月15日	リンクト・オープン・データによる地域活性化に向けて	奥野拓准教授	40
	12月20日	電子情報通信学会北海道支部学生会講演会	寺沢憲吾准教授	30
	12月20日	モバイルコンピューティングと通信技術の現状と将来像に関する研究者ワークショップ	白石陽准教授	10
	12月27日	RISTEX研究会	中島秀之学長	15
	1月22日	台湾国立清華大学との研究会	片桐恭裕教授	20
	3月15日	音楽情報科学研究会第98回研究発表会・エンタテインメントコンピューティング研究会第27回研究発表会(～16日)	平田圭二教授	100
	3月19日	第2回未来大学メディカルICT研究会	藤野雄一教授	40
2013年度 (平成25年度)	7月11日	電子情報通信学会 ICM研究会(～12日)	藤野雄一教授	50
	7月18日	情報処理学会 自然言語処理研究会(NL研)	大塚裕子准教授	40
	8月2日	ベルーガ会議	和田雅昭教授	18
	8月18日	食メディア研究会	角康之教授	30
	8月28日	ISDW(International Summer Design Workshop)2013	姜南圭准教授	40
	8月30日	日韓ロボットセミナー	松原仁教授	20
	10月5日	ETロボコン北海道地区モデル審査会	長崎健准教授	8
	10月12日	ETロボコン北海道地区大会	長崎健准教授	50
	11月18日	はこだて観光情報学研究会	松原仁教授	7
	3月9日	日本デジタルゲーム学会2013年次大会(～3/10)	松原仁教授	101
	3月15日	第3回未来大学メディカルICT研究会	藤野雄一教授	24
	4月5日	函館における偏微分方程式集中workshop	高村博之教授	8
	4月27日	サービス学会第2回全国大会(～29日)	平田圭二教授	150
2014年度 (平成26年度)	5月1日	公開講演会「Simulations in wireless sensor and ad hoc networks:Matching and advancing models,metrics and solutions」	姜暁鴻教授	20
	5月24日	Hakodate Workshop on Nonlinear Wave Equations	高村博之教授	5
	6月7日	情報処理学会 コンピュータと教育研究会	大場みち子教授	40
	6月24日	平成26年度道南ブロック博物館研修	奥野拓准教授	15
	6月29日	HCT祭2014	角康之教授	50
	8月2日	マリンITワークショップ	和田雅昭教授	32
	8月27日	日本神経回路学会第24回全国大会(JNNS2014)(～29日)	佐藤直行教授	150
	8月28日	第14回情報デザインフォーラム in 函館(～30日)	原田泰教授	30
	9月4日	Mashupハンズ・オン&アイデアソン はこだて未来大学～最新APIを使ってMashupサービスを発想するワークショップ～	塚田浩二准教授	30
	9月26日	人工知能学会 ことば工学研究会(～27日)	角薫教授	20
	10月4日	情報処理北海道シンポジウム2014	松原仁教授	90
	11月7日	実践的ソフトウェア教育コンソーシアム(～8日)	大場みち子教授	30
	12月23日	アドラー心理学入門講座	富永敦子准教授	50
	1月24日	非線形波動方程式論研究会(～25日)	高村博之教授	5
	3月2日	第4回未来大学メディカルICT研究会	藤野雄一教授	23
	2月21日	HAKODATE International Open Data Day 2015(～22日)	鈴木昭二准教授	30
2015年度 (平成27年度)	5月30日	2015年度人工知能学会全国大会(第29回)	松原仁教授	1,000
	6月17日	マッチング理論に関する研究会	川越敏司教授	20
	7月4日	Workshop of Linguistics of 'Ba'	片桐恭弘教授	10
	8月2日	マリンITワークショップ	和田雅昭教授	31
	8月28日	Seminar on Nonlinear Hyperbolic PDE in Hakodate	高村博之教授	6
	8月31日	マッシュアップアワードハッカソンin函館	塚田浩二准教授	40
	8月31日	ヒューマンインタフェースシンポジウム2015	角康之教授	400
	9月3日	情報デザインフォーラムin函館 デザインワークショップ HAKODATE-X2	原田泰教授	30
	12月4日	共同研究「函館競馬場開設120周年マーク・ロゴ開設」デザインレビュー	木村健一教授	10

12 | 学会・研究会等 (2010年度～)

学会・研究会等開催実績

年 度	開 催 日	学 会 ・ 研 究 会 の 名 称	担 当 教 員 等	参 加 者 数
2015年度 (平成27年度)	12月6日	第21回知能メカトロニクスワークショップ拡大実行委員会	鈴木昭二准教授	6
	2月3日	第53回ことば工学研究会	角薫教授	15
	3月10日	第5回未来大学メディカルICT研究会	藤野雄一教授	31
2016年度 (平成28年度)	6月26日	CHI勉強会2016	角康之教授	50
	8月2日	電気学会第67回情報システム研究会	大場みち子教授	40
	8月2日	マリンITワークショップ	和田雅昭教授	40
	8月5日	ゲーム情報学研究会	松原仁教授	44
	8月25日	情報処理学会 情報システムと社会環境研究会	大場みち子教授	40
	8月26日	画像電子学会第278回研究会in函館	藤野雄一教授	40
	8月28日	第21回知能メカトロニクスワークショップ	鈴木昭二教授	90
	8月31日	Seminar on Nonlinear Wave Equations in Hakodate	高村博之教授	7
	10月22日	函館IKAデベロッパークンファレンス2016	高橋信行教授	150
	10月29日	「意味と理解」研究会	片桐恭弘学長	14
	12月1日	情報処理学会コンピュータセキュリティ(CSEC)第75回研究発表会	中村嘉隆准教授	100
	2月3日	人工知能学会 ことば工学研究会	角薫教授	20
	3月14日	第6回未来大学メディカルICT研究会	藤野雄一教授	48
	6月24日	函館偏微分方程式セミナー	高村博之教授	9
	6月27日	高文連道南支部図書専門部生徒研修会	角康之教授	150
2017年度 (平成29年度)	8月2日	マリンITワークショップ	和田雅昭教授	43
	8月28日	Seminar on Nonlinear Wave Equations in Hakodate	高村博之教授	9
	9月2日	ETロボコン北海道地区モデル審査会	長崎健教授	15
	10月7日	函館偏微分方程式研究集会(～9日)	高村博之教授	20
	10月13日	2017年度デザイン学会秋季企画大会/日本デザイン学会第1支部支部大会(～15日)	岡本誠教授	190
	10月14日	キャリア研究会函館研修会	大場みち子教授	12
	10月28日	平成29年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会(～29日)	大場みち子教授	300
	1月27日	情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会(～28日)	村井源准教授	30
	2月21日	IW-FCV2018(～23日)	長崎健教授 他	95
	3月20日	第7回未来大学メディカルICT研究会(～21日)	藤野雄一教授	40
2018年度 (平成30年度)	5月5日	明和電機ナンセンス楽器展(～14日)	原田泰教授	300
	6月23日	CHI勉強会2018	角康之教授	50
	8月2日	マリンITワークショップ	和田雅昭教授	47
	8月24日	ISDW2018(～26日)	姜南圭准教授	87
	11月16日	第1回はこだて数理解析研究集会(～17日)	田中吉太郎講師	40
	12月21日	情報処理学会 EC研究会(～22日)	竹川佳成准教授	100
	2月19日	第8回未来大学メディカルICT研究会(～20日)	藤野雄一教授	25
2019年度 (平成31年度)	5月10日	第2回はこだて現象数理研究集会(～11日)	田中吉太郎准教授	30
	8月1日	マリンITワークショップ(～2日)	和田雅昭教授	169
	8月26日	NACA-ICOTA2019(～31日)	鈴木恵二教授	219
	9月13日	The 33rd Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (PACLIC 33)(～15日)	片桐恭弘学長	118
	10月10日	第4回時間領域脳型人工知能研究会(～11日)	香取勇一准教授	10
	12月21日	研究集会「現象数理学の形成と発展」	田中吉太郎准教授	20
	2月28日	第9回未来大学メディカルICT研究会(～29日)	藤野雄一教授	40
	3月1日	人工知能学会 ことば工学研究会(～2日)	角薫教授	14
	3月9日	情報処理学会高度交通システムとスマートコミュニティ研究会 第80回研究発表会(～10日)	白石陽教授	40

本学を会場にした講演会等 その他の団体主催

年 度	開 催 日	講 演 会 等 の 内 容	主 催 者 等	参 加 者 数
2010年度 (平成22年度)	10月12日	第32回全道高等学校図書研究大会	北海道高等学校文化連盟、 北海道教育委員会	70
	11月23日	山岳遭難防止シンポジウム	北海道警察	
	12月18日	彫刻(アート)サポーター養成講座(～19日)	函館市	
2011年度 (平成23年度)	10月15日	北海道高等学校文化連盟 第50回全道高等学校理科研究発表大会	北海道高等学校文化連盟	500
	10月22日	電気・情報関連学会 北海道支部大会	(社)電気学会北海道支部	300
2012年度 (平成24年度)		開催実績なし		
2013年度 (平成25年度)	11月 9 日	函館デザイン協議会20周年記念講演会	函館デザイン協議会	200
2014年度 (平成26年度)	6月28日	キャンパス・コンソーシアム函館合同公開講座 「函館学2014」第2回講義 「食品衛生の情報をもっと分かりやすく」	キャンパス・コンソーシアム函館 講師 ドミニク・カスツジャ・ バゲンダ准教授	79
	10月15日	函館青年会議所10月定例会 「これからの函館は若者が救う!」	一般社団法人函館青年会議所	
2015年度 (平成27年度)	9月26日	キャンパス・コンソーシアム函館合同公開講座 「函館学2015」第4回講義 「「ずーしーほっきー」ができるまで ～ 北斗市ご当地ゆるキャラ制作秘話」	キャンパス・コンソーシアム函館 講師 安井重哉准教授	77
2016年度 (平成28年度)	9月24日	キャンパス・コンソーシアム函館合同公開講座 「函館学2016」第3回講義 「函館のシビックプライドをデザインする」	キャンパス・コンソーシアム函館 講師 木村健一教授	43
	11月21日	はこだて海洋エネルギー勉強会	函館市	12
2017年度 (平成29年度)	9月30日	キャンパス・コンソーシアム函館合同公開講座 「函館学2017」第4回講義 「プロジェクションマッピングで蘇る歴史空間」	キャンパス・コンソーシアム函館 講師 迎山和司准教授	66
2018年度 (平成30年度)	5月16日	全国大学生協連「学びと成長事業協議会」	公立はこだて未来大学 生活協同組合	-
	8月 3 日	函館市南北海道教育センター専門研修 「プログラミング教育」	函館市南北海道教育センター	30
	9月 1 日	第15回全国大学コンソーシアム 研究交流フォーラム	キャンパスコンソーシアム函館	222
	10月13日	函館市市民協働モデル事業「災害を乗り越える智 恵と力をつける女性防災講座」	函館市女性会議	30
	11月23日	第2回JAL折り紙ヒコーキ全国大会予選会	日本航空株式会社	96
2019年度 (平成31年度)	9月17日	北海道高文連第52回道南支部理科研究 発表大会	北海道函館中部高等学校	81
	11月10日	第3回JAL折り紙ヒコーキ全国大会予選会	日本航空株式会社	107